宮內廳

94
676

94-676

和習

明治
43. 5. 7
閲

明治三十四年名寄市街設置當時ノ西四條通

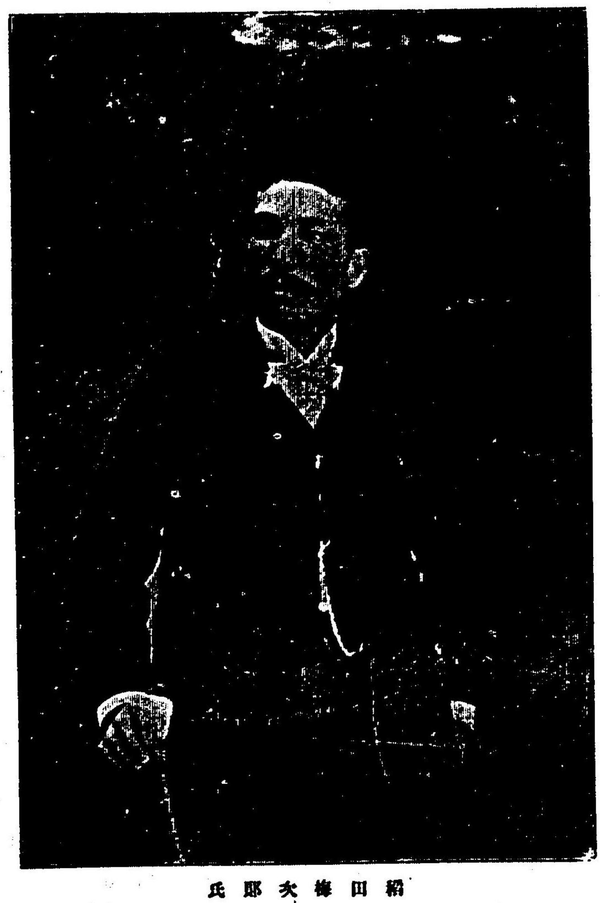
現時ノ四四旅通

上名皆村會議員諸氏

演十名
船三
場線等

天津國名等大道

大久保虎吉氏



稻田梅次郎氏

氏郎太宇田德　　氏郎五長野桑

往昔ノ占據者

風連市街ノ景

颱迹市街之景

緒言

名寄ハ創闢以來未タ僅カニ數年ニ過キス、如何ニ駿足ノ進歩、急激ノ發展ナラスヤ、實ニ世人ノ耳目ヲ驚カシム。

斯ノ進歩、發展ハ啻ニ鐵道ノ終点タリシ故ノミナラズシテ、地形ノ勝秀、土壤ノ肥沃ニシテ而カモ廣且ツ大ナルニ籍ラズンバアラズ。

サレバ名寄ノ聲聞、遠近ニ馳セ、近歳政客ト謂ハス、官人ト謂ハス將タ學者ニ企業家ニ探檢者ニ觀光者ト問ハス、來遊スルモノ頻繁、殆ント踵ヲ接ス

然ルニ住民ノ多數ハ新來ノモノニ屬シ、地方ノ狀態、沿革ヲ知悉スルモノ甚タ稀レナリトス、爲メニ

來遊者ヲシテ常ニ不便ヲ感セシメ調査、觀察ニ滿足ヲ得セシムル能ハサルモノ多カラストセズ、依テ聊カ土地ノ概況ヲ叙述シ以テ來遊人士ノ參考ニ資シ併セテ地方ノ實況ヲ世人ニ紹介セントスルニアリサレド予素ト淺學、短才、行文頗ル蕪雜ナルノミナラス、圖書ノ參考トスベキモノナキヲ以テ杜撰ノ罵ハ甘受スル所、而シテ幾多ノ誤謬ハ識者ノ垂教ヲ乞ヒ他日再版ノトキ增補訂正セントス、讀者幸ニ旃レヲ諒セラレヨ

庚戌三月

御子柴霞峯識ス

名寄案内の發刊をいはひて

細川弘

うつり來て富をつくらぬ民もなし
いかに名寄のゆたかなるらん

同　富所廣吉

くろかねの道をたよりに來てみませ
榮かふ名寄の里のけしきを

名寄案內

目次

(一) 總叙……一
(二) 地理、地勢……五
(三) 山岳、河川……十一
(四) 市街、官公衙……十四
(五) 沿革、關係官公吏名譽職……十八
(六) 戶數人口……二十六
(七) 交通、通信……二十九
(八) 教育……三十四
(九) 神社……四十一
(十) 寺院、會堂……四十一
(十一) 村經濟……四十三
(十二) 氣候……四十七
(十三) 產物……四十九
(十四) 水利土功組合……五十五
(十五) 名寄市街雜觀……五十九
(十六) 下川市街、鐵泉……六十九
(十七) 風連市街……七十四
(十八) 美深市街……七十六

名寄案内

（一）總　叙

武陵桃源の觀おりしも名寄、今は旭日の照々として昇るが如き盛況を以て勃興し、春風駘蕩、百花競へ咲くが如き光景に依て發展しつゝあり。

回顧すれば五七年の昔時は、此の肥沃、膏腴の廣野は雲煙渺茫の裡に匿され空しく熊羆、狐狸の占領に委し、久しく世人より顧みられざりき、否世人斯る優良なる境域あるを知らざりし

附記　北海道探檢家として高名なる松浦竹四郎氏にして尚ほ且つ僅かに「アベシナイ」（今の中川郡中川村にあり）まで入りたるのみなりし、北天地日誌の一節に天地字「アベシナイ」は夷地第一の窮所にて余が土産に煙草一把つゝ遣はしたるが其悅び限なし、此所の者は歎冬の嫩芽を接へ吸ふよし、左程に不自由なるに何故に吸ふやと問しかば、我々は敢て好事にて吸にあらず寒を防ぐ一助と云しが然らん云々とあるを以て知るべし

櫻花は烟霞として笑を含めども之を賞するものなく、黄鳥は美妙に囀づるも更に聽く人ぞなし

若し夫れ朦朧にも倘々知るものありとするも、山岳高くして攀づべからず、江河は深し渉るに由なく、是を以て雲霧堅く之を鎖せるに因り斯の寶庫を開く手段は眞に容易の業にあらざりしなり

明治二年七月蝦夷を改めて北海道となし國郡を分たれしとき、松浦竹四郎氏の分畫する所の地圖に賴て、名寄の地は天塩川の上流に位するが故に上川郡とし其次位に在るべ中川郡と名稱は付せられつるも、當時まだ探檢者の印したる足跡だもあらず、勿論住民なきを以て村落のあるべき筈もなし

さて古來より少數のアイヌ天塩川の江畔、こゝ彼處に點々棲息し、永く世間に遠かり獨り粢顏に山野に出てゝ鹿を狩り熊を獵し、或は河川に入りて鮭、鱒を漁り、衣食に飽き鼓腹して太平を謳歌したりけん

（早）（九）（文）
鮭鱒左雖鱒苦鱒。　漁家鮮食海鰻稀。　功名富貴總無意。
（歳）（歳）（歳）
奏爾漁歌一生。

附記　本道に同一の名稱なる上川郡は三あり又中川郡も二ありて紛らはしければ茲に其所在を示さん

さて石狩川の上流に位するは石狩國の上川郡とし、天塩川の川上にあるは即ち天塩國の上川郡及中川郡となし、十勝川の水源にあるを十勝國の上川郡其次に位するを中川郡とす、又た釧路川の上流に川上郡（釧路國）あるを記せよ

爾來殆んど三十余年の間、放棄せられたりしが此の上川郡に屯田兵を移植せらるべき議あり、尋で村名を設くるの必要生じぬ、而して其村名を撰ぶに當り、アイヌの唱ひ來りし稱呼を採りて、明治三十年六月上川郡に劍淵、士別、上名寄の三村を置き、同時に中川郡に下名寄村を設けられき、こゝに於て當地は始めて一導の曙光を放つべき端緒とはなりにき

附記　上名寄村はアイヌの稱へ來りしナヨロプトに採り下名寄村に對し上字を冠せしものとす、ナヨロプトはナイオロプトの急言にして溪川の落口の意義なりとす

▲劍淵村はケネニペッにて赤楊川と譯すべし、該川の附近に赤楊樹多く繁生せるを以て名けしもの

▲士別村のシペッは大川の義即ち天塩川の沿岸にあるを以て名く

▲多寄村はタヨロペッはタイオロマペッの急言にして

森林中にある川の意なりとす

▲而して中川郡に中川村を設けられしは近く三十九年四月三十日にてありし

されば上川郡の雲霧を拂ひ、光輝を現出せしは旣に角屯田兵の移植に由る賜ものと謂はざるを得ず

熊の住む蝦夷の荒野を國のため
きり開きてよ益荒雄のとも
永 山 將 軍

兵村設置の爲めに道路は汲々として開鑿し、鐵道の工程をも早めて敷設せられ以て發展の步武を進むるに便ならしめられければなり

附記　三縣分治の當時、士族授產法の一として士族移住規則なるものを發布ありて各府縣より無產の士族を驅りて本道に移住せしめられたるに、保護の厚さにも拘らず其成績は豫期の如くならず、然るに曾て屯田兵として札幌郡山鼻村並に琴似村に移植せられたる士族は實に良好の成果を收めたるを以て、明治十七年時の根室外十郡長陸軍步兵少佐和田正苗氏は士族移住規則を廢し其費を移し、屯田兵に組織を代へ嚴格なる指揮監督の下に開拓せしめなければ兵農兩ながら全きを得んと建議書を上つられしに忽ち政府の用ふる所となり兵村を根室郡和田村（和田氏其の大隊長となり氏の姓を以て村名に付す）を始め厚岸に江別に瀧川に永山に夫より沼貝深川蜜岡等に置かれ尋て北見及當天鹽地方にまで配備せられ北門の鎖鑰は愈々堅固たるに至れり而して和田郡長の建議書は予の起草に成れるものなるを以て予は深き趣味を以て之を迎ひたりし

岡在人寰別作家。
射虎網魚生計足。
良鬚短髮詳牙々。
不知帝力日相加。
岩 村 通 俊

（二） 地理、地勢

名寄とは何れの處になりや

名寄は天鹽國上川郡上名寄村になり

抑も天鹽國は南は石狩國に界し、北東は北見國に接し、西は日本海に面す。地勢自ら二部に分れ、其一つを沿海地方即ち增毛、留萠、苫前、天鹽の四郡とし、他の一は天鹽川沿岸地方、即ち上川、中川の二郡となす

從來世人は天鹽と言へは、沿海地方を指し此の上川、中川二郡あるを知るもの多からざりしなり

上川郡は、東北國紋別郡に界し、南、石狩國上川郡に通じ、西、石狩國雨龍郡に接し、北、中川郡に隣れり

郡山を剣淵（士別、多寄、上名寄の四ヶ村に分ち、而して上名寄村は郡の北端に位せり

假定村界（明治三十年六月北海道廳告示第百四十號）は北は中川郡及北見國紋別郡に接し、西は石狩國雨龍郡に界し、東は北見國紋別郡に接し、南は「イトイヌプリ」山脈より發する「パンケヌカナン」川を下り更に「チュレップコバイ」川の川流に據り第三號第四號屯田兵移殖選定地大隊配置區畫線に當へ「ハッチャシナイ」川の水源を極め以て多寄村に隣す（屯田兵移殖選定地區畫線は今考ふべからず）明治四十二年三月（北海道廳告示第百二十一號）本村假定區域を改め確定となし東西北の三方は元の如くなるも南方は上川雨龍兩郡界山脈を基點とし「ハッチャシナイ」「クマウシュナイ」兩川分水嶺を趁て「ハッチャシナイ」山に至り天塩川を下り東五線に至り右折し二十線に至り更に左折して東十一號より「ナヨロ」「フーレベツ」兩川の分水嶺を東に進み「イトイヌプリ」山に至り更に天塩ナヨロ兩川の分水嶺を進み北見國紋別郡界に至ると定められたり

本村の廣袤は東西約十　里余、南北七里にして面積約七十余方里なりとす

而して其多望なる名寄市街は名寄川の天塩川に合流する三叉の上位に建設せられし都會なりき

名寄の地は山姿秀麗にして河水の清冽なる而も空氣は清爽なり、而して其地形は西京に彷彿として其景色の美、風光の雅趣に愛すべし拘すべし

藤波言忠

問くべき野山ゆきつゝ空しくも
みてやは止ます：この大御代に

◎地　勢

上川、中川兩郡の地、古來全く通すべき道路なかりき、されば人の跋渉すべき便りもなさが故に永く雲霧の裡に埋沒せられたり、而かも肥原沃野は數十里に連り、氣候温和にして農作物栽培に適する美域たり、且つ夫れ佳木良樹の豊富なる、特に蝦夷松、椴松の如き万古の翠りを含み鬱蒼として天を刺すの概あり、天惠地福夫れ斯の如し、然るにも拘はらず永く世人より顧眄を得る能はざりしもの抑も如何なる故か、謂ふまでもなく人爲的施設の惡も加へられたることなく荆棘は擅に繁茂し交通機關の更に錯るべきものなかりしに由るものとす

明治二十一年道廳技師内田瀞氏は幾多の測量隊を率て天

攝河口より刳舟に棹して溯上し或は樹蔭に枕し、叢裏に寐ね、悠悠たる苦心を以て名寄太に至り殖民地を選定、測量區畫せられしと云ふ

當時選定せられたる原野の本村に屬せしものゝ面積は左の如し

◎「ナヨロブト」原野　二千七百四十四万八千五百坪

内

二千四十一万七千七百坪　樹林地
三百七十六万七千九百五十坪　濕地
百六万五千坪　高丘
百六十七万七千八百坪　蝦夷松林地
五十二万五千九百五十五坪　泥炭地

◎「モサンルベシベ」原野

二百三十一万三千六百坪　笹生地

◎「ペンケヌカナン」原野

三百七十五万八千坪　樹林地

◎「サンルベシベ」原野　百三万八千九百坪

内

三十二万二千坪「ヨクルマトマリ」樹林地
三十七万六千九百坪「カマコマナイ」樹林地
三十四万坪「ナヨロ」川沿　樹林地

◎「ナヨロ」川沿原野

二百五十二万八千四百坪　樹林地

抑も上川郡には和寒、剱淵、士別、多寄、風連、名寄太の諸原、相連り中川郡にはチエブン、美深、恩根内の各原野、相接續せり、之れ皆な天塩河に沿へる平坦、肥沃の曠野にして其廣袤は二十有余里に亘れり

又た名寄川に沿へる上名寄原野は幅員甚だ廣からずと雖も延長殆んど九里に亘る大原野にして地味膏腴たり

而して其土性は新世冲積層に成り其厚薄目ら別あれども天塩河畔は表層二三寸の塩質土にして中層は四尺乃至六尺の壤土に成り下底は砂礫を布けり、之れより漸々山趾に至るに從ひ其趣を異にし上層壤土は一尺乃至二尺にして中層は赤色の粘土となり其下底は深くして且つ堅し泥炭地にありては其近所の粘土より成り來りて深さ四尺乃至一丈其底又灰色の粘土にして表層僅かに塩質土を被ふものとす

其植物の重なるものを擧ぐれば、楡、柳、黄蘗、菩提樹、山胡桃、楓、攘槐、樺木、白楊の類密林をなし、其下草としては箬、茭、欵冬、虎枝、剉寄奴草等繁茂し濕

地に至りては、蓍蒿葉貝母、觀音蓮、淡葉、イヌツゲ、ヤマヅチツ、菅の類相生す只て興味の齎腹を卜すべきなり

撰定以來放棄せらるるもの殆んど又た復十星霜を送りし

に三十二年より歳次に上川郡に屯田兵の大部隊を移住せしめられることに決定するや道廳は三十一年度より、旭川よりナンルの山峽(天塩、石狩の國境)を開鑿して道路工事に着手せらる、此の時に至り始めて上川郡は前途有望の地、將來多望の地と稱し、一時に世人の注視する所となりにき

然るに此の一大平原の太部分は屯田兵移殖豫定地に編入せられ、一般に貸付せられざりしにより多少發展に遲緩を來せし觀なき能はざりし

越て三十三年に至り各寄太を始めとし上多寄、下多寄等の諸區畫地は庶人に貸付せらるることになりしかば、恰も江河の決せし如き勢を以て出願に狂奔するものあるに及びたり

三十六年道廳の調査に係る殖民適地として選定せられたる面積は左の如しと

	上川郡	中川郡
上等地	二四、二四、三三坪	二、九二七、二九二坪
中等地	四一、二七七、一八六	一七、七八八、九七七
下等地	二、六三、八五五	五、三五、八五八
計	八七、五八五、三六一	三五、一〇二、〇三四

此の後、歳々幾多の山林を解除し植民地に區畫せられしもの多きが故に今日にありては前記統計の地積より增加せしもの廣大なりと知るべし

昔時を回顧せば、幾かに五七年の前に在ては、寂寞荒寥の地、上別より當地に來るに二日を費し千辛、万苦の困難、而かも憩ふべき家もなく宿るへき旅舍もなかりしも、今は到處鷄犬の聲は相聞へ特に市街は人煙、稠密なる都會に變ず、急激、長足の進歩發達に別天地の感なくんばあらず

陸奥の國のいしふみ書かへて
いまや越てなん此島かれに

(三) 山岳、河川

山岳の重なるものを記せんに、上川郡の東南、天塩、石狩、北見、三國の境に巍然として際雲に聳ふるものを、天塩嶽となす、海拔實に一千五百九十三尺とす

◎宇遠山は北見國境に跨り、高さ一千二百二十三尺と註せらるる、峯巒重疊背後に位するにより望むべからず

◎意間岳は、上名寄と名寄との村界、線上に屹立す、海拔九百四十尺、樹木、鬱蓊、山容、優秀たり

◎名寄市街に在て朝に夕に東北に望み溫容、愛すべき美那山は高さ一千〇二十三尺、笑を含み將に媚び來り迎んとするに似たり

其他、四圍を繞ぐるの峰巒は所謂、滿圍被て伏したる如き孰れも柔和なる山姿、其翠黛嵯々たるを見るべし

山田顧義

在根天塩石狩州。　長川一帶入然流。　可無業傳拜面筆。
駐屯本す山上秋。

◎河　川

河川の大なるを擧ぐれば

◎天塩河は北海道三大川（他の二川は石狩川、九十二里廿八町、十勝川、四十九里二十三町）の第二位を占め源を天塩嶽に發しケネプリ、シベツ、タヨロマ及名寄川等の諸流を集め浩々として上川及中川郡を貫流し、其長さ七十有七里と二十六町、蜿蜒として天塩郡天塩村に至り日本海に注入す、其靜なる所、碧潭、深淵、蛟龍をも潛むべく、其怒なるに當でや眞に一瀉千里、水煙を擧げ、飛沫を吹く、其壯、其快思ふべし

若し夫れ春霞、靄靄たるの時、櫻花の紅は新柳の綠と嬋娟、水波に映ずる頃、或は盛夏、熱日の候、老松、古樹崖上に茂り、削壁に飛泉懸り奇岩、苔滑かなるの邊、或は秋老け、氣澄めるの日、鴨雁、沙上に眠り、万木、錦繡を織るの際、又或は初冬、鮭魚は靜淵に群かり、蹇毛片々、枯木、花咲くの旦、扁舟を浮べ、之を觀賞せば實に一幅の畫圖に入るに似たり

◎幽邃なる北見國境に泉源を發し潺々奇勝の溪谷を流れシカリベツ、ペンケヌカナン及パンケヌカナン、サンルベシベ等の細流に合せ滾々十余里、天塩川に會する、名寄川は水、最も清冽、されば鮭及鱒の溯上するもの夥しく「ヤマベ」「イワナ」さては「ウゴイ」等の魚族、群游するもの多し、靜閑の日、綸を垂れ或は網を投ずれば巨口、細鱗、潑々として立ところに籃に滿つ、其味、甚だ美なり

波　邊　千　秋
敢銀若來病未体。　北游又拘杞人憂。　誰知風雲運皆夢。
偏逢三河十二州。

（四）市街、官公衙

四通八達、樞要の地位を占むる、名寄市街は南北に開通する大通（道幅二十間延長九百十八間）を中心とし、西は西一條通乃至西四條通に分ち、東も亦た東一條通より東四條（道巾各十一間）に至り、其毎條の間に幅八間の小路を設く

而して仲通（道幅二十間延長六百九間）を以て南北に分ち南は各條とも南一丁目より南七丁目に至り北も同じく北二丁目乃至北七丁目（道巾各十一間）となし、區畫整正、恰も碁局の如し

其宅地は一戸分は間口六間、奥行廿六間、此坪數、百五十六坪、一丁毎に十戸分に區分せり

明治卅五年二月十四日にてありしか、天塩國上川郡名寄太に市街豫定地を設定し、競爭賣拂に附す云々と告示せらるゝや世人、皆相唱ふ、名寄は前途、眞に多望の地、近き將來、必ず第二の旭川を形ち造らん、第二の旭川、第二の旭川の聲、高く、或は占居事業を起さんと企つるもの、或は宅地を領有し奇利を博せんとするもの交々狂奔せり

當時汽車は僅に士別迄通じ、夫より七里余の行程、車なく馬なく行歩頗る艱難なるにも關せず、相競ふて實地、踏檢に來るもの陸續として踵を接し、積雪堆裡中に時ならぬ人士の群集を來たしけり

さて競爭入札施行の日割は三月三日より七日に至る五日間なりしが其當日未明より先を競ひ押し寄せ、其幾百千人なるを知らず、哄聲を發して蹈めくさま凄ましかりし競賣に付せしは官用地及公共用地を除き一千八百十三戸分なりしが入札數は瞬間にして一万七千二百二十三通の多數に達し、一千五百七十三戸分は夫れ等人士の手裡に歸し了はりぬ

而して其最高價は二百五十二圓十錢にして最低は二圓五十錢にて平均二十八圓許なりと云ふ

然るに低濕の地又は古川跡等當時入札の殘區ありしを、一昨四十年十月（大通以西、仲通以南の分）貸付の告示發表せらるゝや、出願者頗る夥しく僅か七十二戸分に對し願書の數は二時間に四千幾百十通の多きに上れりと、如何に名寄の好況にして如何に世人に重視せらるゝかを推知するに足りぬへし

市街地の廣大なる夫れ斯の如し然るに其占有者の多數は

旭川に札幌に小樽に其他各府縣人の手に歸し夫等の人は自ら家屋の營造をもなさず又他の讓渡若くは貸借の需めにも應せず、只だ地價の騰貴を見越し徒に養蓄に委し去るは繁榮上實に遺憾なき能はざる所なりとす

されば非業を經營する人の要求を充たす爲めに西四條通の裏(耕地)並に南七丁目の南方(畑地)に私設道路を開き宅地に區劃をしかば借受人甚だ多く忽ちにして全地貸借の契約濟み此の地に家屋の建築盛んに起り更に新市街を現出し今西五條通と稱す

活動し發展しつゝある名寄市街は三十五年に呱々の聲を擧げてより今茲に漸く七歳　前年にて戸數三百と謂りしもの現今は七百有余　を算するに至りき

而して家屋の建築は永久的に構造せられ、宏壯なる建築を見るに至り、戸口の增殖は今尙ほ止まず、建築工事頻りに起りつゝあるを以て、永き歳月を待たずして一千の戸數を數ふるは近き將來に現し、一大都市の偉觀を呈するに至るべし

萬里小路通房

月花のなかめよりかは開けゆく
ささの秋色そたのしかりける

◎官公衙

▲上名寄村役場　大通仲通西南角
村長　荒木太三郎氏

▲旭川警察名寄分署　大通南一丁目
分署長警部　原田悅造氏

▲帝室林野管理局
札幌支廳名寄出張所　西三條通仲通
所長　澤田忠太郎氏

▲同名寄分擔區員駐在所　同　上原政弘氏

▲名寄郵便局　大通仲通東南角
局長　大河原淺衛氏

▲名寄尋常高等小學校　西三條仲通
校長　飯田復鹿氏

▲名寄驛　大通南六丁目
驛長　諸橋春吉氏

▲旭川區裁判所名寄出張所西二條仲通
所長書記　鹿內榮次郎氏

▲上川營林區署名寄森林監守駐在所　西五條南一丁目
森林監守　北島馨氏

▲北海道地方森林名寄監護員駐在所　西四條仲通
監護員　杉浦源吾氏

（五）沿革、關係官公吏名譽職

名寄は編幹偉大にして骨格亦た逞しく特に健全に發育せしにより一見成人の觀ありつるも、實際は誠に幼稚にして漸く尋常一年生に等しき若年……語るべき履歴なく、又た告ぐべき經驗にも乏し、しかのみならず其前身は絶て人跡なき濠味、暗黑界のもの、口碑、舊記のあるべきなきを諒せられよ

されど今日の出來事も明日は過去たることを知らば、米來に於ける歴史の資料として趣味なき事項なれど、聊か覺ゑ得る事實を傳んとす

◎明治二年七月、開拓使の管下に立ち同月上川郡の命名を受く

◎十五年、開拓使廢せられ、札幌縣の所轄に屬す

◎十九年一月、札幌外二縣廢せられ北海道廳の治下に歸す

◎三十年六月、上名寄村の稱號を得る、劍淵、士別、多寄三村及中川郡下名寄村も同時に村名を付せらる

◎三十一年、上川支廳の配下に屬す、是より先き、增毛外四郡役所及增毛支廳の部下たりしなり

◎同年、旭川より通ずべき道路開鑿工事に着手せられ、三十五年に至り下名寄村字オンネナイまで竣功し、今は中川村字パシケサックルを經て北見國枝幸まで全通し四十年假定縣道に編入せらる

◎三十二年、劍淵に屯田兵を移住せしめらるゝに當り始めて同村に戸長役場を置き、上川、中川二郡一圓を管轄とし其部下に入る

◎此年十一月士別、名寄太田道路、排水工事起工、三十三年十月廿五日竣成、此の延長は七里十四町三十五間にして、工費は金二万五千三百二十六圓八十一錢なりし

◎此年、名寄太原野及附近の殖民區並地貸付せらる、之れ本村に於ける貸付地の嚆矢なりとす

附記　卅年の貸付耕地は上川郡に於て六百十二筆、其地積は一千七百七十三万三千四百四十一坪にして、中川郡は百七十八筆、地積五百五十九万三千四百五十七坪なりしといふ

◎此年より移住者始めて入り來る

◎此年、旭川より士別まで鐵車運輸開始せらる

◎同三十四年四月一日より中川郡各村を劍淵外三村戸長役場の所轄に屬せらる

◎此年、上タヨロヤ、下タヨロヤ原野殖民區畫地貸付あり

◎同年、官設名寄驛逓設置せらる

附記　位置は西四條通北一丁目(仲通角)ありしが停車場と遠隔にして不便なりしにより取扱人高見庄吉氏は三十八年四月私費を以て現在地に移轉せり

◎三十五年三月、名寄市街豫定地競賣に附せらる、競爭者頗る多かりし

◎同年、劔淵外四村戸長役場の所轄を割き上名寄外二ケ戸長役場を名寄に設置其九月十五日開廳あり

附記　此日を以て同村紀念日とし今は即ち九月十五日を以て神社の祭典を執行

◎同年三月、名寄郵便局を設置開局せらる、局長として大河原淺衛氏任命爾來繼續尚ほ今に至る

◎同年十月、今の名寄尋常高等小學校の前身なる上名寄簡易教育所の授業を開始す

◎此年、市街地道路十五町四間開鑿費金四千六百八十四とあり

◎三十六年八月、名寄停車場及風速、多寄停車場設置せられ其九月三日より運輸營業開始せらる、茲に於て當地方は大なる便利を得頓に活氣を增し發展の速力を進めたり

◎此年、名寄、興部間道路開鑿工事成り次てパンケヌナン(今は下川驛逓と改稱)及シカリヘツ(今一の橋)驛逓官設あり

◎三十七年一月、風速簡易教育所を開始す、三十九年尋常小學校に組織編更す

◎同年三月、上名寄簡易教育所を尋常小學校に變更し校舍を新築す

◎同年四月、幌簡易教育所を設置す(位置上名寄原野十九線)

◎此年、ペンケウリリシベシベ並にパッチャシナイ殖民地貸付あり

◎三十八年七月、上名寄五線簡易教育所を開設す

◎三十九年三月風速郵便局設置四十一年三月三十一日より集配事務開始

◎同年同月下川郵便局新設當初より集配事務取扱はる

◎三十九年四月、中川郡に中川村を新設せられ、上名寄外二村戸長役場の管轄に屬し、上名寄外三村戸長役場と改稱

◎同年、十八線簡易教育所及有利里簡易教育所を設置す

◎同年、上名寄尋常小學校に高等科を併置し名寄尋常高等小學校と改稱し大規模の增築をなす

◎四十年三月、上名寄外三村戶長役場所轄を割き（中川郡下名寄、中川の二村）中川郡下名寄村に戶長役場を設置し、其六月一日開廳

◎同年四月、旭川警察署名寄分署を設置し大通南一丁目に廳舍を新築す（廳舍は本村より寄附す）

◎同年八月、名寄消防組を公設す

◎此年、風連御料農耕地二百余戶分貸付希望非常に多かりし

◎此年十二月、御料局出張所新築成り四十一年一月開廳帝室林野管理局札幌支廳名寄出張所と稱せらる

◎此年、市街地家屋の建築工事盛に起り大に市觀を改む又新潟團体及佐坂農場内に私設道路を開く

◎此年十二月、下川簡易教育所を創設し校舍を新築す

◎四十一年二月一日より風連電信取扱所（停車場公衆電報）設置せらる

◎此年五月十二日より十七線西二號「ハッチシナイ」特別授教所を開く

◎此年七月二十日旭川區裁判上名寄出張所を設置せらる廳舍は村費にて西二條伸通に新築寄附したるものとす

◎同月廿二日珊瑚教育所を「サンルベシベ」に設置指定せらる

◎此年八月十八日下川教授所及曙教育所を尋常小學校に改稱す

◎此年十月九日上名寄原野三十二線特別教授所を設け、十二月九日然別特別教授所を設く

◎此年名寄尋常高等小學校に間口八間奥行十五間の大運動場と大規模の教室一棟の增築をなす

◎此年風連尋常小學校を東西二校に分立し風連御料地に風連教育所を設け風連三十線に特別教授所を開きたり

◎四十二年三月十六日北海道廳告示第百二十一號を以て上名寄村多寄村の假定區域は改められ本村字風連は多寄村に編入せらる

◎此年三月限にて名寄官設驛逓を廢止せらる

◎此年四月一日より本村及多寄村に二級町村制を實施せらる、多寄村役場位置は風連市街に指定せられたり

茲に於て獨立自治の村政を施こし始めて成年に達したるの思をなせり

大きみのみこさかしこみ諸さもに
はけまさらめやむくつさらめや

附記　二十八年始めて上川郡役所（旭川に）を置かれたるときの郡長は磯部正勝氏（山口縣人）なりしが、上川支廳に改まりし以來の支廳長は左の諸氏にてありし

明治卅年十一月補任同三十參年四月根室支廳長に轉　林　顯三氏（石川縣人）

同參十參年四月同　同年九月非職

同三十三年九月同　同參十五年札幌區長に　楊村雄之進氏（福岡縣人）

同參拾五年同　同參拾八年休職　加藤寛六郎氏（福島縣人）

同參十八年同　同四十年六月檜山支廳長に　久保誠之氏（山口縣人）

同四拾年六月同　同四十一年一月休職　安食高保氏（滋賀縣人）

同四十一年一月現任　渡邊佳介氏（鹿兒島縣人）

而して當村戸長としては左の諸氏なりとす

明治參拾五年九月より同三十六年まで　平井光長氏（埼玉縣人）

參拾六年より參拾八年二月まで　松原作次郎氏（石川縣人）

和井内喜之氏

參拾八年二月より參拾九年參月まで　三浦忻郎氏（岩手縣人）

參拾九年九月より四十一年七月まで　御子柴五百彦氏（福島縣人）

四拾一年八月より年九月まで　中川寅一三氏（山形縣人）

年九月中　事務兼掌屬　蔭山逸夫氏（愛知縣人）

四拾一年九月より四拾二年三月まで　鴨澤恒義氏（岩手縣人）

明治四十二年四月二級町村制施行後の村長としては

明治四十二年四月より年十一月まで　鴨澤恒義氏（岩手縣人）

四拾二年十一月より現任　荒木太三氏（佐賀縣人）

本村創設以來の總代人諸氏は

荒木　太三氏（再三重任）　德田宇太郎氏

齋藤卯之吉氏　近藤芾平氏

大谷次郎市氏　高見庄吉氏

原田愛次郎氏　德田宇太郎氏（再任）

又二級町村制施行により初期村會議員に當選せられたる諸氏は左の如し

木材兼牧畜業　大久保虎吉氏　木材業　木原太三治氏

呉服太物　坪田　米治氏　雑貨商　荒木太　三氏
小間物商
驛逓取扱　高見　庄吉氏　農業　佐々木七右衛門氏
農　業　市村　其助氏　農　業　石丸　瀧藏氏
仝　海基　富作氏　仝　町田　成朔氏
仝　永井　庄助氏　仝　齋藤健一郎氏

四十二年九月町田成朔氏は郵便局長に同十一月荒木太三氏當村長に就職に付退任せられ其補欠として左の二氏當撰せらる

農　業　德田宇太郎氏　藥　舗　柏原宅次郎氏

（六）戸數、人口

本郡は元と増毛外五郡役所（増毛、留萌、苫前、天塩、中川、上川の六郡）の管轄に屬し、戸長役場は天塩村に在りて其所轄は天塩、中川、上川三郡一圓なりしを以て實地に就て戸口を調査せしことなく、明治貳拾八年頃、時の郡長たりし林顯三氏は天塩川口より丸木舟に乘り、「アイヌ」を教導とし士別邊迄溯りしことありしも十分なる調査をなすに由なかりき

明治貳拾九年末の戸口數は中川郡村名未定として十三戸四十九人、上川郡も又村名未定にして九戸、三十四人とあり而かも之等は總て「アイヌ」のみにして、此所、彼處に轉々遷居するものなるが故に精確なる統計たるを得ざりしなり

明治三十年官制の改革に由り増毛支廳の管轄となるも該支廳吏員の當地に來りしもの一、二人もあるやなしや尤も増毛より當時此の地方に出張するには海路小樽に出て夫より札幌、旭川を經て來るの不便なりしなり

イッの頃よりしか一人の獵師名寄太即ち名寄川落口の右岸に草廬を結び狩獵の勞ら其附近を耕し大根、葱等を作り居りしものありと是れを和人住居者の嚆矢となす（此者後ち行衛不明になりしが或は氷上を渉り河中に沒溺せりと云ふ）

明治三十九年末調査、本道の現住戸數は二十四万二千八百六十二戸にして、現住人口は百二十九万一千百九十三人なり

明治貳年開拓使設置當時の人口五万八千四百六十七人に比せば實に貳拾貳倍の多きに達したり

本村の戸口は三十三年まで古來柄息せし二三の「アイヌ」を除けば全く皆たりしもの今は殆んど二千戸に上り、人口八千三百二十八人の大數を算するに至りたり、實に急

激の進歩たる他に類例を見ず、既往六ヶ年間の年末調査に依れば其戸口數左掲の如し

年別	現住戸數	現住人口
明治卅一年	三	四
仝　卅二年	四	一〇
仝　卅三年	三	五三
仝　卅四年	一四〇	四七四
仝　卅五年・	三八二	一、一三二
仝　卅六年	六六八	二、一〇八
仝　卅七年	一、〇三六	三、〇八四
仝　卅八年	八八三	四、一八五
仝　卅九年	一、二五八	六、七九五
仝　四十年	一、九五五	七、五三
仝　四十一年	一、九七四	八、三二六
内 本籍	一、三五九戸	六、五六五人　男 三、三三二人　女 三、二三三
寄留	六三五戸	一、七三二人　男 九二一人　女 七二二

さて本道に於ける人口の密度(一方里に付)の最も多きは後志國にして八百四十四人、渡島國之に次ぎ七百八十九人、石狩國は四百六十三人、我が天塩國は百二十二人なり、而して最も少きは千島國の四人にして、全道の平均一方里人口は二百十人なりと云ふ

われはまたいさ知られじ蝦夷が島　さむしさ聞けば心して住め

(七) 交通、通信

名寄は旭川より鐵車にて三時間の行程、朝七時の發車に乗れば午前十時四十二分に着く、名寄よりは午前十一時四十五分午後四時卅分に發車するに依て、大概の用達、見物してもH歸りするを得る、若し一泊せば翌朝七時發の列車がある、交通便利の地、特に這般、運車貨の減下せられてより一層往き來の人を增せり、名寄より旭川に通ずる道路は勿論、然別、興部を經て網走に行くべき道及び美深バンケサツクルを經て枝幸に通ずる道路も縣道に假定せらる

玆に名寄附近及旭川等に至る鐵道哩數を掲げて初めて來し人の便に供せんか

名寄驛より分

風連	四哩九分	多寄	八哩九分
士別	十三哩八分	剣淵	十九哩二分
和寒	廿四哩七分	旭川	四十七哩二分

札幌　百卅三哩五分　小樽　百五十三哩七分
室蘭　百九十三哩八分　函館　三百拾貳哩貳分

又縣道よりするときは

多寄　貳里貳拾貳町卅五間
士別　七里拾町卅五間
劍淵　拾里參拾八町貳拾五間
旭川　貳拾三里拾壹町五拾八間
札幌　五拾八里卅一町四拾六間

又北見に行くべき東方の道路線の里程はパンケヌカナン（官設驛遞を下川驛遞と云ふ）四里廿貳町五十三間

然別（一の橋驛遞）　八里四町五拾參間
興部　拾九里貳拾參町五拾參間
網走　四拾八里參拾四町拾七間

附記　北見道路は元と中央道路と稱し愛別より越路北見峠を經て野付牛に出つるを本道とせしが、濕車名寄に通せし以來本項の道路を採り、郵便線路も亦た此線路に改正せられ今や中央道路は荒廢に歸せり

又北方中川郡を越へて北見國枝幸に至る里程は左の如し

美深（川端驛遞）　五里二十九町
恩根内（森内驛遞）　九里二十四町
パンケサックル（常盤驛遞）　十五里三十町三十間
枝幸　二十八里余

附記　パンケサックルより天塩郡天塩村に通ずる道路は僅々四五里間未だ開鑿の工を告げず、此の線路にして竣工せば二十里以内にして西海岸に達すべく、開通の曉には交通上大いに便利を增すや必せり

而して天塩川には掛舟の利ありて、名寄より下流、恩根内、パンケサックルは勿論舉平、遠富内より天塩海岸まで通じ、旅客及百貨の運漕に供する板舟、數十艘ありて日々上下せり（冬期即ち十二月より翌年三月中旬迄休止）其舟は一艘に三十駄余の貨物を積載し舟頭二人にて二日にして舉平に達す、該所は名寄より約二十六里を隔つる處、而も夜陰は碇泊し白晝のみの駛行にして然るものとす、水利の利實に至大と云ふべし

且つ夫れ稚内に通ずべき未設錄道線の百二十一哩半に過ぎずと聞く、樺太の領有に歸してより拓殖上に於て必要なると同時に警備上にも大なる關係を有するが故に近き將來に開通の時期を見るべきか

又名寄より分岐して網走に至る線路は第二期線に屬すと雖も亦近年拓殖の事業大に發達せしを以て其工事に着手

せらるも決して遠き將來にはあらざるべきか

近者更に天塩郡羽幌より名寄に通ずる線路は又枝幸よりペンケサツタルに至るものとの布設の急を唱ふるもの多きに至たるを以て早晩事實に顯はれ交通機關の完備を見るに至らん

附記　石狩國に屬する雨龍川の上流に農耕に適する原野ありて地味も亦た肥沃なりと、此の平野も早晩殖民地に撰定せらるべし、此地に入る深川よりするときは三十里に近く且つ山岳、起伏、道を求むる頗る困難なるも名寄なる字パンケテウリルペンベより行くときは僅かに七里許にして其線路は殆んど平夷而して低き山脈あるのみなりと、此の溪谷は「アイヌ」獵師が常に跋渉する處なり

即ち夫の名稱を意譯せはペンケとは上手の事にしてウリリは雨龍の原名ルペンベは山越しを爲すべき澤の義なり

以上の道路にして開通せは其に四通八達の巷となり愈々益々聲名を發揮し繁盛を來すへきなり

（下部鳴鹿）
（曾近同首十餘年。）
（蒼古深林觀眺天。）
（山巒河澗足人烟。）
（一百荒原通鐵軌。）

◎通　信

上名寄村中に郵便局三ケ所あり、市街にあるを名寄郵便局と云ひ三十五年三月の開始にして三十七年三月より電信（和文）開始四十一年七月より美深局に至る電話を取扱はる、而して字上名寄原野にあるを下川郵便局と稱す三十九年三月の設置なり、字風連に在るを風連郵便局と云ふ三拾九年三月の開設にして無集配局たりしが四十一年より集配局となる、四拾二年三月村界の變更に依て該局は多寄村に入れり

名寄郵便局に於ける四拾一年度の通信事務の概況を擧ぐれは即ち左の如し

種別	引受	配達
通常郵便市内	二五三、〇六九個	三八、六三個
同　市外	三、六三三	七〇、四一八
計	二六五、八九一	二九九、〇九一
内書留	七、四九五	六、二九九
價格表記	二三五	九五
同上金額	壱、六五六円一九七	二、〇五〇円二二五
小包郵便	二、五三〇	六、〇〇四
同代金引換	二五	一、三八三
同上金額	五九九、二〇〇	二、九五六、二二五

電報	内國發信	二、三元	着信　二、八七〇
同	外國同	六	二
同	中繼	三、〇〇六	
料	金	二、五八、八七〇	
爲替	振出	八、四七七 拂渡	五、一三三
	同金額	三八、一〇二、二七〇 同金額	九、九三、四八一
貯金	預入度數	三、九三八 拂渡度數	一、四七三
	同金額	三、二六八、一四六 同金額	二五、五九、七四七

信書往復多少に依て其地方の文明なると非文明なるとを判するに足るべしと云ふ、今名寄市街より發送せし信書の數二拾五万三千六拾九個なるを以て、居住戸數八百戸(概數)を以て之を除すれは一戸平均三百拾六通三三の發信に當り又配達數は二十二万八千六百七十三個なるにより一戸平均二百八十五通八四となれり、如何に人智の發達して事業の振作せるかを推知せらるへきなり

加藤千溟

嶮峻か住む深山の奥も雁なうて
ふみ通ふへくなりにける哉

(八)　教育

本村住民の特色とも云ふべきは向學心の發揮せることにして、移新創開の地に在て漸く四五十戸の部落を成せば有志者は直に小學校或は教育所設置に熱心し非經費に奔走し或は校舍、器具或は敷地等部落住民の寄附に成り年次生徒の增加に伴ひ校舍の增築を爲し漸次に設備を完全にせり、爲めに就學の歩合は最も良好なりと云ふ

附記　明治四十一年五月の調査に係る全道及上川支廳管内に於ける學齢兒童就學歩合左の如し

		就學兒童	不就學兒童	就學歩合
全道	男	二、六六六	二、六六六	九八、〇九
	女	一〇九、七二	三、七八二	九六、六七
	計	二四六、一四五	六、四四八	九七、四一
上川支廳管内	男	一四、四一六	五〇六	九六、六一
	女	一〇、九四一	五三三	九五、四五
	計	二五、三七七	一、〇三八	九六、一〇

◎名寄尋常高等小學校　所在地　名寄市西三條仲通

敷地　三千六百坪

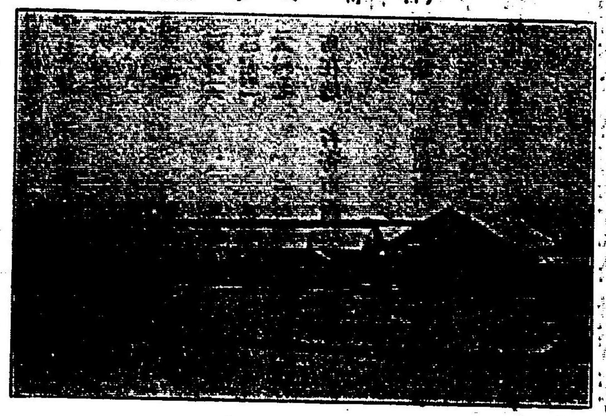
校舍　教室十二、運動場一、職員室、應接間、宿直間、小使室、廊下、便所等約五百五十坪なりとす

職員　校長飯田復鹿氏、首席訓導鈴木隆男氏、外教員十二名

生徒　尋常科男四百六人、女二百六十九人、計六百七十五人

高等科男五十二人女二十人、計七十二人

沿革　元と上名寄簡易教育所と稱し明治三十五年十月開始す當時は西四條にありて堀立の草小屋にして白井豊信氏教鞭を執られしと、三十七年三月上名寄尋常小學校に改め今の處に新築（名寄小學校）



北方の教室より今の職員室まで）せられ稍や完備の校舎となる、三十九年高等（四年の）併置し同時に上字を除き名寄尋常高等小學校と改稱し現校長飯田氏就任せらる、此年南方の東教室四及渡り廊下十五間、便所等增築し、四十年其の西教室三及生徒昇降口等を增築し、四十一年西方の三教室及大運動場（八間に十五間）便所昇降口（北方）廊下を建て增し器械、器具皆完備し現今　御聖影奉戴所建設の計畫中にして旭川以東第一學校と稱するに至る

◎尋常小學校　名寄太十五線東四號

校舎　教室二、運動場、教員住居室等あり

職員　校長小久保豊七氏外一名

生徒　男四十九人、女二十二人、計七十一人

沿革　明治三十七年四月簡易教育所として創設し校舎を新築す、四十年教室一室を建て增築教室を運動場に充つ、四十一年又一教室を增築し、其八月尋常小學校と改めたり

◎下川尋常小學校　上名寄原野二十三線にあり

校舎　教室三、教員住宅等を設備す

職員　校長白津慶治外二人

生徒　男六十八人、女四十七人、計百十五人

沿革　本校は明治四十年十二月簡易教育所として新設し教室一及教員室等を新築したるも生徒日月に增加せしを以て四十一年に一室及教員住宅等を增設し其八月尋常小學校に組織變更す此年地方有志家の

勞力を以て校圃及農業實習畑を設けゝ

◎十八線教育所　名寄太十八線にあり

校舍　教場一、教員住居室を設く

職員　大槻祐吾氏外に裁縫教員一名

生徒　男三十二人、女十八人、計五十人

沿革　明治三十九年の創立にして校舍新築せしものあり

しが狹隘にして且つ不完備なりしを以て四十一年

大修繕を加へ教員住所を設けたり

◎有利里教育所　ウツリベンベ十線にあり

校舍　一教室及教員住所

教員　土屋直太郎氏

生徒　男二十三人、女十七人、計四十人

沿革　明治三十九年創立同年校舍を新築す

◎上名寄五線教育所　上名寄原野四線にあり

校舍　教室、小運動場、教員住所等

職員　代用教員渡邊武八氏、裁縫教員一人

生徒　男二十九人、女二十八人、計五十七人

沿革　明治三十八年七月創立にして校舍不完全なりしが

地方有志の勞力に依り四十一年教室及其他修築改造し完

全の設備となる

◎上名寄教育所　上名寄原野十六線にあり

校舍　教室、教員住所等備はれり

職員　教員只木一郎氏　裁縫教員一人

生徒　男三十二人、女二十三人、計五十五人

沿革　明治三十七年新設し元と同原野十九線に在りて西

十一年三月二十五日回録の災に罹り全部烏有に歸

せり依て通學區域の稍や中央に屬する現在の所に

移し同年校舍を新築したり

◎瑠璃教育所　ナンルベシベ御料地本通五十二號

敷地　二町九反一畝二十歩

校舍　教室及教員住所あり

職員　太田留吉氏

生徒　男十九人、女十六人、計三十五人

沿革　明治四十一年七月の創設にして同時に校舍を新築

せり

◎上名寄三拾二線特別教授所　上名寄原野三拾二線に

あり

教員　糟谷勝雄氏

生徒　男拾七人、女拾一人、計二拾八人

沿革　下川小學校、距離殆んど二里半なるを以て兒童通

學困難なるに依て明治四拾一年拾月より之を開始

◎然別特別教授所　シカリベツにあり

教員　諏訪峯吉氏

生徒　男拾人、女六人、計拾六人

沿革　此地方より下川小學校へは四里の遠きにあり學齢兒童の通學し能はざる所なるを以て明治四拾一年拾二月より開始するものとす

◎初茶志内特別教授所　ハッチャシナイ拾七線西二號にあり

教員　佐藤善治氏

生徒　男八人、女拾人、計拾八人

沿革　該所は交通不便の所なるを以て明治四拾一年五月之を開始せり

二級町村制實施後學務委員に撰出せられしは左の拾氏にして何れも教育熱心家なるのみならず公共事業に盡力せらるゝものなりとす

公民選出

白井六三郎氏　徳田宇太郎氏　原田愛次郎氏

末武次郎吉氏

村會議員よりは

荒木太三氏　町田成蹴氏　佐々木七右衛門氏

石丸　瀧藏氏

教員よりは

飯田　復鹿氏　小久保豐七氏

而して荒木太三氏は本村々長に町田成蹴氏は三等郵便局長に就任に退職せらる

三條實美

君が代は磐石かそれも敷島のみち開けりさ聞くそ嬉しき

（九）神社

◎名寄神社　天照太神宮を祭る　西四條北一丁目

無格社なりと雖も、明治三十九年九月宮祠を建築し、華表を建て、毎年九月十五日を以て祭典を執行し餘興として競馬、角力等の催しあり山車、踊屋臺等練り廻り年中唯一の賑ひ日なりとす從來開村紀念日（三拾五年九月拾五日戸長役場開廳せられたるを以て）とし九月拾五日祝祭せしに由り此日を以て祭日と定めしなり

三條成方

今日こゝに磐石か手わさの幣取て

うみ山やすき御稜をそする

（十）寺院、會堂

神社、寺院、會堂

◎天擁山淨覺寺　日宗本願寺派　名寄太拾叁線一千六百三拾五番地

本尊は阿彌陀如來にして由緒は明治二十七年五月布敎に着手爾來信徒增加せしにより創立出願し同四十一年三月十一日公稱許可せらる

境内一千二百坪　永續賃本畑四町六反九畝廿五歩　本堂五十六坪　向拜三坪　庫裡十二坪

住職　朝倉惠見氏

◎清滿寺　日宗大谷派

本尊は阿彌陀如來　由緒明治三十四年七月布敎に着手し檀徒百三十余戸に及びたるを以て創立出願し明治四十二年叁月十八日寺號公稱許可せらる

境内　一千百十坪

本堂　五十坪五合　向拜一坪六合余　庫裡二十七坪

住職　白井驛信氏

雨條文學博士
手來人似來迎春。　到處欣々同敎親。　今宵接踵天滿國。
又看鑑光一段新。
清滿寺中像故人。　主僧何況道用親。　法燈成句題其上。
一副道容覺有神。

◎曹洞宗說敎所　西四條南一丁目

◎淨土宗說敎所　同　南叁丁目

◎日蓮宗說敎所　西二條南四丁目

會堂

◎日本基督敎名寄講議所　西叁條南五丁目

◎天擁基督敎會　大通南一丁目

◎天理敎會名寄宣敎所　西一條南二丁目

伊達邦成

荒にみし敎の道は知らずとも
わくまはなさか人に曾かん

諸　孫　萬　作
イテツキ、ナゼツポ、ウエンドロ（アイヌ語）
衆　善　奉　行
ナビヅポ、ピリカ、キウドン、カシヤ（アイヌ語）

（十一）村經濟

本村は新開、創業の地、施設、經營すべき事業多からずとせず、特に移住者の歲月增加するに伴ひ、敎育機關の設備を要するもの年々少しとせざるが故に歲出は每年加倍するの實況以て發展の具想を卜すべし

四十一年度村費豫算は左の如くにして三万〇二百六十九圓余にして其末尾に前數年間の總額を列記し比較の便に

供せんとす

明治四十一年度上名寄村費豫算

收入

第一款　雜收入	六九五、八〇〇
第一項　雜收入	一三〇、〇〇〇
第二項　財産ニ生スル收入	四八、〇〇〇
第三項　授業料	二一七、八〇〇
第四項　行旅病人同死亡人遺物拂價金	五〇、〇〇〇
第五項　過年度收入	二五〇、〇〇〇
第二款　前年繰越金	七五、九一二
第三款　地方費補助	一九八、〇〇〇
第一項　教育補助	一九八、〇〇〇
第四款　村費賦課額	一九、一〇〇、一六八
第一項　戸別割	一八、〇〇〇、〇〇〇
第二項　宅地割	三五〇、一六八
第三項　地所割	七五〇、〇〇〇
第五款　寄附金	二〇〇、〇〇〇
合計	二〇、二六九、八八〇

支出

經常部

第一款　議會費	
第一項　給料	一〇四、〇〇〇
第二項　需用費	三〇、〇〇〇
第二款　教育費	七四、〇〇〇
第一項　俸給	一一、五一一、九八〇
第二項　雜給	六、四五六、〇〇〇
第三項　需用費	一、七八四、〇〇〇
第四項　修繕費	三、〇八七、三一〇
	一八四、六三〇
第三款　土木費	一五〇、〇〇〇
第一項　道路修繕費	一五〇、〇〇〇
第四款　衛生費	一〇九、〇〇〇
第一項　傳染病豫防費	一〇九、〇〇〇
第五款　村費取扱費	七八三、五〇〇
第一項　徴收費	七八三、五〇〇
第六款　警備費	五三九、四〇〇
第一項　消防費	五三九、四〇〇
第七款　雜支出	六五、〇〇〇
第一項　行旅病人同死亡人費給付金	五〇、〇〇〇
第二項　會議費	一五、〇〇〇
第八款　雜備費	八〇、〇〇〇
合計	一三、三四二、八八〇

臨時部

第一款　教育費	六、六二五、五〇〇
第一項　校舍建築費	六、六二五、五〇〇
第二款　勧業費	六〇、〇〇〇
第一項　勧業補助費	六〇、〇〇〇
第三款　寄附金	二三二、五〇〇
第一項　上川高等女學校設備費寄附	八〇、〇〇〇
第二項　農科大學並高等商業學校寄附	一五二、五〇〇
第四款　教育費補助	九、〇〇〇
第一項　上川教育會補助費	九、〇〇〇
合計	六、九二七、〇〇〇
總計	二〇、二六九、八〇〇

明治四十年度	決算額	一四、一九〇、八五〇
明治三十九年度	同	五、七五九、一二〇
明治三十八年度	上	二、四八七、一六九
明治三十七年度	同	三、二四六、七〇八
明治三十六年度	上	一、六六三、五八六

明治三十五年度　九五八、九六七　同　上

而して二級町村制實施せられたる四十二年度の豫算は左の如し

歳入

使用料手數料	四六五、〇〇〇
雜收入	五二一、二六八
交付金	二四二、七二〇
地方費補助金	七二〇、〇〇〇
村稅	一八、六〇九、〇〇五
計	二〇、五五七、九九三

歳出

村役場費	三、〇六九、七六〇
會議費	貳七四、〇〇〇
教育費	一〇、八八〇、四三〇
土木費	一〇〇、〇〇〇
衛生費	一六二、〇〇〇
警備費	五八八、六〇〇
諸稅	三、〇〇〇
雜支出	二、六二五、〇〇〇
基本財産造成費	六〇、〇〇〇
臨時費	五　七、七〇三
特別會計繰入	一五〇、〇〇〇
計	一八、四三〇、四九三

臨時部

教育費	四四〇、〇〇〇
普通費	一三二、五〇〇
村有財産費	六八、五〇〇
警備費	三〇、〇〇〇
雜入金	一、一五五、五〇〇
利子	一一、〇〇〇
教育補助費	四〇、〇〇〇
衛生補助費	五〇、〇〇〇
勤業補助費	二、一二七、五〇〇
合計	二〇、五五七、九九三

四　忠　義

誠をも其きさほす誠もて
つくさは成らぬこゝやなからん

《十二》氣候

名寄の氣候は旭川に比し大差あることなく、宗谷に比すれば高温なるを以て農作物は能く成熟せり

明治卅七年、道廳に於ては特に名寄に臨時觀測所を設け觀測せられたる報文の概略を掲げ以て之を証明せんとす即ち其文左の如し

◎名寄の氣象

天塩國上川郡の原野は天塩川の上流に位し四方に山を繞らし、天塩川に沿て十余里に亘る原野にして地味肥沃、開拓の業盛なれば其氣象を知るの必要あるを以て、明治卅七年原野の北部なる上名寄村字名寄に臨時觀測所を設け一ヶ年間觀測を施行せり

今其觀測の大要を掲んに、氣候は全年平均攝氏、四度六

分にして、石狩國旭川上川測候所所在地より低きこと、一度とす、北寒暑の變化甚だしきは旭川に類似するも、殊に晩春に於て比較的低温なり、其四季の平均温度及年内の最高最低氣温を同年の旭川に比較すれば左の如し

地名	春	夏	秋	冬	全年	年内最高	年内最低
名寄	二、六度	一八、四	六、三	(一)八、七	四、六	三一、一	(一)三三、五
旭川	四、〇	一九、五	七、二	(一)八、五	五、六	三三、三	(一)三三、六
名寄の方低さこと	一、四	一、一	〇、九	〇、二	一、〇	二、二	高一、〇

風力は旭川に均しく全年平均二米二にして五月に於て稍々強し

風向は地勢上、南西偏風最も多く北偏風之に次ぐ

空氣の濕度は全年平均八十三にして、旭川より多きこと一とす、五月の七十三を最も乾燥せる月とし四月六月之に次ぐ

降水量は千二百五十三粍にして旭川より稍々多し

雨量は七月に多かりしも平年は秋季に大なるもの丶如し

霜は五月二十七日に終り、九月二十六日に始まりしも從來の例によれば終霜は六月に顯はる丶ことあり

雪は最深三尺七寸に達し、根雪は四月二十三日に融消し十一月十三日復た根雪となれり

報文既に前の如し是に由て氣候の大要を知るを得んしてして三十九年は十一月三日初雪降り夫れが遂根雪となり、四十年は十月二十五日初雪にして十一月十六日根雪となり、積雪の多き稀有にして殆んど四尺七八寸に及びしが四十一年四月二十二日融消したり、而して五月十二日夜降雪寸許積みたりしも直に消失したり

四十二年十一月五日降雪翌六日又大風雪にて一尺余に及び根雪となれり

大庭機

都人はさのあつしをきてな見よ
こほれる海も氷からなくに

(十三) 産物

所殖民地のことにしおれば農業は唯一の事業にして最も多數を占め、次を商業となす

先年隆盛を極めたる林業即ち木材業は市況不振の爲め、目下衰退の狀態にあるも近き將來にありては再び作興すべきは疑を存せざる所なりとす、其他工業に鑛業に或は鎮業等何れも有望ならざるはなし

◎農業地としては市街の東方に熊本團農場あり、名寄川を越ては「マクンベツ」御料小作農地あり、又本年本村に

於て賞揚を受けたる高畳も一大農場たらん、南方は佐坂農場、徳田農場及木原（町田の諸農場あり、西方市街に接続せるは新潟開休にして天満川左岸には山形、相馬、越中の各開休あり

其の西方溪澤に「ハッチャシナイ」「ウリリルベルベ」あり

又舊土人給與豫定地あり（此の地は第七師團設置の當時近文に在りし舊土人を移轉せしむる計畫なりしが事故により移轉を中止せられしなり）北方名寄川向ふに岐阜團体あり地味何れも肥沃にして穀菽豊熟せり且つ北見街道に沿ふたる上名寄原野には八丈島開休、岐阜開休移住及谷井農場あり、然別御料地には石丸農場あり其の北方溪澤には「サンルベシベ」御料農地あり、是等の地も亦た蒼腹にして氣候温和なるを以て水田を試作するもの年一年に増加せり

明治三十四年中貸付地豫定存置の許可を得しもの左の如くなりし

名寄太原野

三七五、〇〇〇坪	阜岐縣	川尻清太郎	團体	二十五戸
一、五〇〇、〇〇〇	新潟縣	齋藤和平太	同	百戸
一、一二〇、〇〇〇	富山縣	稲垣善治	小作農法	
四九五、〇〇〇	岐阜縣	瀧々平佐吉	團体	三十三戸
一、一一〇、〇〇〇	徳島縣	吹田儀平	小作農法	
五四〇、〇〇〇	宮城縣	北條春吉	團体	三十六戸
四五〇、〇〇〇	徳島縣	堀井鶴	同	三十戸
四五〇、〇〇〇	福井縣	佐々木與市	同	三十戸
七五〇、〇〇〇	山形縣	遠藤孫左衛門	小作農法	
四五〇、〇〇〇	徳島縣	笠原仁平	團体	三十戸
八二五、〇〇〇	岐阜縣	古屋太郎右衛門	同	三十戸
三、三八、七六二	熊本縣	清崎長平	同	二十三戸
三九五、七三七	富山縣	町田平兵衛	小作農法	

原上名寄野

一、五七二、七三〇	東京府	淺沼八三郎	團体	百戸

附記　上川郡に於ける墾成畑地一反歩當り現今の賣買價格は左の如しと云ふ

村名	上	中	下
劍淵	三十五圓	十八圓	六圓
士別	二十五圓	十六圓	八圓
多寄	三十五圓	二十五圓	十五圓
上名寄	三十五圓	二十五圓	十五圓

而して上川支廳管内に於ける最高は旭川町の上七拾圓中五圓下三拾圓にして之れに次ぐは神楽、永山、東旭川、東川の上五拾圓とし最低は南富良野村の上畑拾二圓なりとす

▲重要農作物の種類並に其收穫は（四拾年分）左の如くなり

種別	作付反別	收穫高	
粳米	三、五町	五六石	一反歩收穫高 一、六〇〇石

大麥	一〇七、四	一、五〇三	一、四〇〇	
裸麥	一四三、六	二、一五四	一、五一〇	
小麥	七二七、二	八九〇八	一、五〇〇	
蕎麥	二〇八、二	七、九一一	三、八〇〇	
大豆	一三一、五	一、四四六	一、一〇〇	
小豆	四一二、五	三、五〇六	八五〇	
菜豆	一九、八	三二六	一、六五〇	
晴豆	一六、五	二四七	一、五〇〇	
黑豆	三〇、八	五二三	一、七〇〇	
黍	一九八、〇	三、九六四	一、八〇〇	
玉蜀黍	五七二、〇	一四、三〇〇	二、五〇〇	
稗	四一、〇	四五一	一、一〇〇	
馬鈴薯	六二七、〇	四、〇七五、五〇〇	六五〇貫	
玉蜀	五	二七〇	五四	
甘藷	三七、〇			
蘿蔔	六三、二	三九一、八四〇貫	六二〇貫	
胡蘿蔔	一八、七	一一七、八一〇	六三〇	
牛蒡	八、八	五二、八〇〇	六〇〇	
瓜類	一五、〇	九〇〇	六〇	
豆腐（豆稱貫）	八、三	七、四七〇	九〇	
菜種	六三八、〇	八、二九四石	一、三〇〇	五五〇

◎商業地方需用の商名の取引は多く旭川に於て行はれ品稗に由り札幌、小樽に於て行はるゝものあり内地府縣と直取引をなすものは極めて稀れなりとす、名寄市街の商業範圍は本村各部落は勿論とし多寄、風連及中川郡各村或は北見國紋別郡に及べり

▲魚類は小樽より仕向られ時として室蘭より來り又冷氣の季節には北見より入れり

▲物價は各商店競よて勉强するを以て旭川と大差あるを見ず

▲地方の產物たる雜穀類は市街の商店或は旭川、小樽商人の手にて輸入さる

▲當市街に倉庫會社あり完全なる石造倉庫あるも未だ倉庫の利益なるを一般に認られざれば實に遺憾とする所なり且つ倉庫と相待て銀行を設け金融機關の完備に至らば市況一層の盛景を呈するに至らん

◎林產、當地方林相の良美なるは本道屈指のヶ所にて特に蝦夷松の如きは天然松と稱し著名にて徑四五尺の巨木を出せり其產出地は官林を始め御料林地方模範林及殖民地內にして木材の盛に輸出せしときは冬、夏とも巨額の產出ありて停車場內、丘阜の如くに堆積す其輸出せし數量は左の如くなりし

種別	四十年	四十一年
丸及角材	一四五、二一七尺〆	九八、七五三尺〆
挽材	一、七六〇	九、七〇〇
稻丸太	三七九	二一二
白樺	五〇、九五一丸	三三、八二五丸
柾	一七、二五〇丸	一一、五三一丸
薪用材	七四	一

産物			
鐵道枕木	一〇八、〇〇〇	六八、五一九	五十四
車輛用材	三七	三八	
下駄材		一八二	
木炭	三三一、七〇〇	二四九、五八〇貫	

◎小北木工場は現今數座の機械を据付大小各棟の挽材を製出しつゝあり

◎燐寸軸木は三四工場ありしが元と森忠次郎氏の經營に係りしもの盛大なりとせり今は大日本燐寸軸木株式會社の分工場となりしも追々原料の欠乏に由り振はざるに至りし其製出高は三十九年は六百〇八万六千斤、四十年は百七十四万一千六百八十斤にてありし

◎蠶業氣候、養蠶に適し又天然桑山野に生茂するものあるを以て有望の事業なりとするも現時開墾に忙がはしく未だ斯業の發達を見るの時期に達せず、四十年の飼養家は十六戸にして其掃立高は僅かに十四枚にて收繭の數量二石四斗に過ぎざりし

◎獸皮は拓殖事業の進歩に從ひ年一年に減少し近年の產額は左の如くに至りたり

種別	三十九年	四十年
黄鼬	五四〇欣	四八六
貂	九〇	八一
熊	六〇	四一
狸	五四	四七
狐	二三〇	二〇
水獺	三〇	二八

◎鑛業石炭、銅等の試掘あるも未だ搬出するに至らず、然別地方に於ける砂金採取は毫々多望なるに似たり

近衛篤麿

職草の蔓りし野邊を今日みれば
さかぬくまなし大和なてしこ

(十四) 水利土功組合

名寄は氣候、地質能く水田に適するを以て比年の試作は好成績を收めたり

曾て木邦に來遊せし獨逸人ライン氏は稻は攝氏二十度を下らざる平均溫度を六ヶ月(五、六、七、八、九、十の六ヶ月)間連續せんことを要すと云へり此の溫度を積算すれば三千六七百度の總溫度となる然るに酒勾博士は謂ふ日本は自ら日本の氣候あり三千度以内にして水稻の生育に十分なり、且つ夏季の溫度比較的に高き地方に於て早熟の稻種を撰ぶときは總溫度二千八百度を以て米の良收を得べきことを斷言すと、二千九百二十八度の二十五年は北海道米作の最上豐作にして一反歩の收穫三石を超ふるものあり二千八百四十二度の二十七年は上作にして農

民大に喜ひ二千六百四十度の二十六年は下作に相違なきも相應の收穫ありしを以て之を証せられしことあり

夫れ然り氣候の水田に適するは論を俟たざる所にして農業經濟上大なる利益ありと雖も獨り水利の灌漑に便ならざるを以て其發展を見るに至らざりし、茲に於て流涸溝堀整の必要を認め德田宇太郎、町田成朔、木村政太郎、野田平助、清水正黨、齋藤久治、神野久吉、岡本與之松、井川竹三郎、福井俊一郎の諸氏の發起を以て土功組合を起すの議あり、四十一年十一月創立發起人會を開き、議は立ちどころに熟し德田宇太郎氏を創立委員長に推し其十二月名寄土功組合設置の申請をなし、四十二年三月廿二日認可を得聖二十三日道廳告示第百四十六號を以て組合規約及區域等を公表せられ、上名寄外一村戸長を以て組合長に指定せられ、亞て二級町村制實施に當り組合長は多寄村長に指定せられたり

而して起工認可も既に得たるに依り今春(四十三年)融雪を待て工事に着手すべしと云ふ其組合長及議員左の如し

組合長藤懲治氏(多寄村長)組合議員は德田太郎、齋藤久治、町田成朔、野田平助、吉川洗之助、福井俊一郎、三好萬太、清水正黨、神野久吉、木村政太郎十氏にして組合員は八十五名なりとす

組合區域は多寄村字風連別二十九線を其點とし西南は風連別川を以て界とし、東は殖民區畫線を以て界とし北部は上名寄村字名寄太十五線を天塩川沿岸より東九號道路に至る夫より南に折れ十五十六線の中央にある風防林を界とし殖民地區畫線に至るものとす其面積は約一千町歩にして水田に開發見込は約七百町歩の多きに達すべしと

而し灌漑溝は風連別の河水を引くものにして幹線は(水路敷六尺法一割深さ平均四尺)延長四千七百二十間、第一補助線は(敷三尺法一割深平均三尺)延長八百間第二補助線は(敷法深第二に同じ)延長一千七百三十間なりと云ふ

本邦に於ける水田耕作は近年大に改良せられ上田は一反歩に付四石より五石の收穫を見るに至りたり、而して四十一年は上作柄なりしも其收穫は四千六百万石なりしと

而して邦人の一ヶ年の消費高は一人平均九斗五升とし四千八百万石を要するが故に年々二百万石乃至二百五十万石の不足なるを以て水田耕作は大に奬勵の必要あるものとす

當組合に於て水路開鑿の功を竣り水田七百町歩の墾成をなせし曉には一反歩の收穫一石六斗と見るも一万一千二

百石を得べく漸次改良せば二石以上の收穫を計るは左程難きことにはあらざるべし

前述の如く米の需用は一人平均九斗五升なれば此の收穫米を以て一万一千三百人を養ふに足り則上名寄村民二ケ年分の食料に供し尚ほ余りある計算となるべし

若し產米の價額にして一石十二圓と假定せば實に金十三万四千四百圓の巨額に上るなり之れ其組合員の利益たるのみならず國家の渋益たる一大事業なるが故に吾人は其健全なる成功を誠意願る所なりとす

大御國さまさん道をわたつみの
なみの底まで開きつくせよ

彰仁親王

附記上川支流管内に於ける三十四年以來水田灌漑事業を起したるもの左の如し

村名	灌漑溝工費	水田開發豫定
東旭川村	二九、五〇〇円	七町〇〇歩
永山村	一四、五〇〇円	四〇、〇〇〇
當麻村	四、三〇〇	五、〇〇〇
東川村	八、〇〇〇	七、〇〇〇
鷹栖村	四、六〇〇	四、六〇〇
再び起工のもの亦た左の如し		
當麻村	七、〇〇〇円	二、一〇〇町歩
永山村	八〇、〇〇〇	二、五〇〇

而して四十一年に於ける水田反別及其收穫は左の如し

	作付反別	收穫高
神樂村	七〇、八町	三、六五三石
神居村	四八、〇	六、九三六
美瑛村	六五、〇	七一五
東川村	六九三、四	七、九九七
東旭川村	二、四〇九、七	三一、四二三
永山村	九五〇、〇	一〇、四一一
愛別村	一六、〇	一九〇
比布村	八、三	五八
鷹栖村	二六、四五二	三五、九八九
計	八、八〇九、八	一二六、一七三

(十五) 名寄市街雜觀

毎日發車三回、着三回は名寄停車場に上下する客車の數にして此の多貨物列車は日々數回運轉せられ、汽笛の聲は絶へ間もなく其の發着の間際に至ると待合の混雜雜踏モミ合へ押合へ、老人などは實に氣の毒の有樣　構内の待合店にも客は充滿して居る

されは客車は何づれも滿員にて倚るべき席なく立ン坊のまゝ乘り通すことは珍らしくない

客人の階級も色々樣々にて「シーガー」を燻らす洋服の官

人あれは、煙管をカハユル赤毛布の農夫もある、厢髮の佳人あれは頬返りの老媼もある、ハイカーラの紳士あれは、半纏着た職人もある、リボン差した乙女もあれは、棒バノの腕白もをる、軍人もあれは學生もをる實に千態萬狀だ

安島醜顔

遊蕩歡車任行脚。溪流滔去入溪峰。
倒棲雁皮似白龍。横斯怪石如熊獸。

井上四丁

行過郊野入林巒。木落江山一望寬。
煙爐火無寄車来。霜紅楼々名寄路。

旅人宿は十五、六軒あり宏壯なる二階建の旅舘もある、然るに毎夜旅客は充滿し少し晩くなると敷布團がないと謝絶に遇ふ

如何なる客人なるか實に繁昌である、或は何會社員、何銀行員とか、或は木材商、穀物商、サテハ土地探檢、狀况視察と云ふ風にて何れも進取的に活動せる事業家なるらん

料理店十何軒かある外にきその喫簾も數多見ゆる皆な相應に賑ひ連夜絃歌の聲は湧くように聞ゆる

藝妓二十余人酌婦も亦た幾十人か居る、之れ等も大流行にはやり居る

君來て實を見給へ………トハ市街の人より聞く話である

浦井春村

霧山絶海調方趣。蒙古満洲指點中。
自然無地不春風。瑤国雲煙皆好事。

イザ………是より市街の景況を解剖的に案内すべきか

サテ滊車より降りて第一に眼に映ずるものは凱旋門……………地方名産の巨大なる蝦夷松の二つ建て如何にも雄大、偉観其門柱には有賀貞一氏の豪健なる筆にて左の四句を刻む

武蟲四海　　威輝八紘
赫灼偉勳　　長照青史

此の門を出づれば則ち大通にて道巾二十間なり、其正面に丸宇水島旅舘高壯の二階建て、大久保木材店、倉庫會社の石造庫あり、之れ等は大に美観を添ふる建物、又た豊島旅階あり、二階造白壁の丸石石川旅舘は誠實勉强の評判、六等旅客の疲勞を慰するに足るべし夫れより北に進めば米穀、荒物、菓子製造桑野商店あり、呉服太物及和洋小間物を店頭に飾るは坪田商店にして市街にて一二を爭ふ大店なりと云ふ、尙ほ歩を進べば東側に基督教會の壯麗なる會堂と相對し西側に天理教宣教所あり

而して高く警鐘を梯上に懸くるは警察分署にして、仲通西南角には村役場あり之に對するは郵便局とし西北角には丸文小林商店あり日用諸品を販賣し、此附近代書業數軒ありて願届を爲すものゝ便を計れり、其東方に高き二ケ所の煙突を望むべし、一は小北木挽場（東一條南一丁目）にして本年二月中には二万二千五百八十通りの挽割をなせりと、其の一は日本燐寸軸木會社の分工場なり、今は原料の欠乏によりて振はざるに至れり

西一條通ば未だ街路の開鑿なけれども其南五丁目筋には舊驛遞あり北本家具店を始め旅人宿　湯屋等の諸店あり て販ふ所とし南六丁目の三層樓は元の吉野亭なりとす

西二條通に至れば仲通北側に登記所あり、帝室林野管理局の出張所あり其南側は名寄小學校、廣大なる白墨の校舍、日々一千の生徒昇降す其男兒の活潑にして勇ましさ其女生の嬉々たる樣の愛らしさよ、南四丁目に日本基督教會あり日曜には多くの信者殿拜祈禱するを見る、同六丁目に名寄鐵泉湯あり上名寄の某所より湧出の冷鐵泉を汲み來れるもの毎に浴客多し

西三條通之れ亦た街路の開鑿なく南二、四、五、六丁目の横道開通し其四丁目に遠山產科院あり、五丁目に笠原合名會社名寄支店あり銘酒金泉、銀泉を發賣す同五丁目通は往來最も繁く、商家櫛比し神保馬具製造店あり、舟橋醫院あり常に門前市をなすと、同六丁目に名取釀造場あり銘酒名寄泉を販賣せり

サラ西四條通は縣道筋にして第一に道路開鑿せられ其西側は所謂國体の耕地たりしも今は第一等の繁華なる巷となれり、北一丁目に村社の假宮殿あり最初官設驛遞を茲に設置せられ此邊最も早く家屋を建築ありし處たりと、荒木米穀商店、森角藥舗、宮本菓子店等あり而して南一丁目より七丁目までは商店櫛比連簷して屈指に遑あらざる商家あり、深山診察所は市街創始の時より開かれたる處なりと九三白井商店は元と丸大大塚富治氏の跡を襲がれしものにして第一の大店呉服太物は勿論とし雜貨、小間物其他殆んどあらゆる物品を販賣す、穀類雜貨商には谷口、淺邊、河村、樋口、諏訪、遠山、扇田、笹岡、大塚、木賀、野坂、三浦等の諸商店あり、呉服太物には近江、片桐、薄葉、梅本、櫻井　林、常本、山本商店等とし、漆器、陶器類には藤井、片岡、木田商店あり、鮮魚乾物には大野、大澤、小間の諸店あり、金物は三井、木村、中山商店あり、藥舗は池田、寺川、谷井、柏原廣來

堂あり、菓子屋には田中、石原あり、其他木村時計店、杉本洋服店、坂東馬具店、橋本下駄店あり、友成味噌醸造店あり、其他湯屋に理髪に飲食に旅宿に備はらざるものの殆んどなし

西五條通は新開の私設市街なるも南三丁目筋には小樋座あり東亭を始めとし料理、割烹店軒を連ね不夜城の觀あり、夫より北方には木原事務所、清滿寺淨覺寺等ありて盤賑なる市街にして而して此市街に於ける特殊の營業者を擧ぐれば左の如し

醫師	深山竹松	西四條通南一丁目
	舟橋功	西三條通南五丁目
	小笹仲二	西四條通南三丁目
	淺田德藏	西三條通南六丁目
產婆	遠山タメヨ	西三條通南四丁目
	田中トク	西一條通南三丁目
會社	名寄倉庫株式會社	大通南六丁目
	天塩運輸合名會社	停車場前
	天塩運輸合資會社	西四條通
	日本燐寸軸木株式會社分工場	東一條通北一丁目
	笠原合名會社名寄支店	西三條通南四丁目

市場	魚菜市場	東一條通南一丁目
工場	小北木挽場	停車場裏
	林木工場	西五條通南三丁目
劇場	小松座	

又本書刊行を歡迎せられたる諸君は左の如し

湯屋	平泉主雄	西四條通南三丁目
呉服商	梅本源吉	同
乾物鮮魚商	大野彌惣松	同
藥舗	寺川鹿藏	同
農產商	角野外次郎	同
荒物商	谷口仁太郎	同
金物商	三井基宣	同
農產商	諏訪典市	同
呉服商	櫻井呉服店	同
農產商	遠山共益商會	同
下駄商	橋本商店	同
洋服裁縫店	杉本一二	同
荒物農產	扇田商店	同
陶器商	木田商店	同
鮮魚	大澤商店	南四丁目
同	小間商店	南五丁目
荒物雜貨	笹岡商店	同

呉服商	林支店	西四條通南三	
金物店	酒井榮太郎商店	同	北一
荒物商	大塚商店	同	
古物商	常本八次郎商店	同	南六丁目
荒物商	木賀商店	同	
撫元扱所	荒木太三	西三條南五	
藥舗	柏原應來堂	西二條南五	
金物店	木村又三郎商店	同	
呉服店	山本商店	同	
書籍店	皆川太一郎	大通南五丁目	
	佐藤文平	同	六丁目
製麵店	國司九郎兵衛	同	
雜貨商	鳥商店	西四條通南六	
鮮魚乾物	浦商店	西一條通南五	
荒物雜貨	赤田商店	大通東一角	
湯屋	一山助藏	西四條南三	
菓子卸小賣	石原菓子店	西二條南六	
印紙煙草	高見庄吉	西一條南五	
郵便局長	大河原淺衛	西四條南二	
金物店	中山壽太郎	西四條南六	
荒物雜貨	矢部兼藏	大通南五	
畳製造	北本競		
荒物商	野坂商店		
農産商	三浦房吉		
荒物商	岡島商店		

産地木綿特約	竹田呉服店	西二條通南六	
菓子商	角館祥二郎	西一條南六	
	齋藤久治	風連盛岡農場	

上名寄原野

郵便局長	川戸菊若	二十三線	
	五味勘三郎	同	
小學校長	石井鼎助	二十五線	
村會議員	只木一郎	十五線	
同	佐々木七右衛門	五線	
同	市村甚助	十八線	
同	石丸瀧藏	シルベッ	

且つ夫れ本道中にて最新の殖民地にして、迅速の進歩發展せしは北に我が名寄あり、南に倶知安(虻田郡)あり、左れど名寄は彼よりも常に優勢の地位にありしことは獨り我等の卑見のみならずして世人も皆なしかく信せりしなり

顧らざりき、彼れは本年(四十三年)三月一日より小樽、岩内、壽都の三支廳を廢せられ倶知安市街地に新たに後志支廳を置かれ前三支廳管内は勿論室蘭支廳管内たりし虻田郡の内をも新設支廳の管轄に附せられ、同時に警察署、支金庫を設置し亦た將に區裁判所をも置かれんとす

茲に於て幾多の官吏は轉任し商賈を始め諸人の入り込も

の夥しく爲めに家賃を騰貴し地價は暴騰する俄かに突飛の繁榮たりし尚は幾層倍の發達をなさん勢あり眞の滄海の變の如き感あり

時運の推移に隨ひ變化あり盛衰あるは免かれざる所なれど北海道にありては何の地も發展の一方にのみ趨き歲月に繁榮を呈すること疑なく而かも拓殖新經營案は貴衆兩院無事に通過し愈々來る四十三年度より之れが實施を見るに至れば一層の活氣を生じ進歩の速度に強大を加ふること又更に疑を容れずして可なるべし

夫れ安りに他の盛運を羨みて非觀すべき名寄にはあらじ前途は益々好望にして盛況を來すべき理由の存するあればなり、晴ふ獄思瀞考せよ

天北線たる名寄・稚内間の鐵道は來る四十七年までに完成し、又第二期線たりし名寄、網走間も或る方法に由て一期線に變更し之れ亦た四十七年度までに全通せしむる計畫なりと云ふにあらずや

且つ夫れ名寄、羽幌間に更に鐵道敷設の議も甚だ優勢なるにあらずや

斯の如く交通機關の完備せる曉には名寄を中心として網走、宗谷、増毛地方への交通至便なるを以て或は増毛、宗谷、網走三支廳を廢し又上川支廳の一部を割きて我が名寄に天塩支廳を置かるゝの時運に到着するのヨなきも知るべからず

若し夫れ北方の警備の上よりして一個旅團の兵營を名寄に置かるゝの時の來るなしとも限らざればなり

曾て世人の唱へし第二の旭川を實現し此の廣き市街地も狹隘を告げ戶數幾万人口何十万を計ふる一大都府を形くるに至らん、コヽ一番上下心を一にし惟れ信惟れ義奮勵自疆息まざるべきの時ぞかし

四　忠義

もろ人のこゝろひとつにはけみなは
磐もまかれもぬかてあるべき

(十六) 下川市街、鑛泉

下川市街……元と「パンケヌカナン」と稱せし處上名寄原野二十三線にあり、地方の要求に應じて生したる小市街、此の處は上名寄原野中幅員の最も廣濶なる地にして南方は殖民地約三里に亘り、北方丘陵を隔て「サンルペシペ」御料農場あり北見に通ずる縣道にして鐵道は第二期線なるも一期線に繰上げ來る四十七年までに開通せらるべき計畫なりと

此地に前に官設下川驛場を置かれ管主は稻田梅次郎氏なり、下川郵便局あり局長川戸菊若氏、下川尋常小學校は校長白津慶次郎氏、帝室林野管理局名寄出張所下川分擔區員駐在所及巡査駐在所あり、下川醫院あり設改所あり又呉服太物雜貨商には日比商店あり越後屋あり、藥種化粧品類に末武商店あり武田雜貨店あり旅人宿には岡田旅舍あり其他諸商店ありて地方の需用を供給し且つ產物を買入るの利便あり

名寄へ四里二十二町五十三間にして車馬能く通せり、東方然別へ四里十八町なり然別に一の橋驛遞あり田所新藏氏之れが主たり該地北見國境に迫り此の附近は有名なる砂金鑛區たり

名寄川の上流なる一の橋の河岸、奇石怪岩多く其橋頭老樹古木蒼苔とし其風景の佳絶なる壽岡に及ばざる所たり

蕪　惣吉

樹疎蘚古巖蘚綠。　澤水深々蟲不聲。
心閑始解布衣厚。　犬聲雲石背青苔路。
嘯傲風煙此生足。　歌魂未覺到朱門。

增餘絕無名利累。
蝶伴名花春晝閒。

◎鑛　泉

下川市街の南、約七里許の處に周圍の峯巒、綠翠にして淡流滾々として水清く幽趣、靜景眞に仙郷に似たる地あり、一度是地に遊ぶときは實に神を養ひ壽を保つの感を覺ゆべし

コヽに靈驗ある鑛泉の湧き出づるあり、此の鑛泉は過る明治三十八年中五味勘三郎氏の發見に係るもの夫より石丸瀧藏、日比瀧三郎、佐藤重吉の諸氏共同出資し諸種の調査を遂げ其翌卅九年に其筋の許可を得たる所なりとす此の鑛泉分析の結果は實に靈驗、奇効あるものなりしを以て愈よ浴場を經營するに決し今五味氏の手に依て計畫しつゝあり融雪を俟て直に起工せらると云ふ、斯かる雅勝の地にして斯かる奇効ある靈泉あり開場の上は病者は勿論とし遊客の多きは今より想像せらるべし

若し夫名寄、網走間の鐵道にして敷設せらるれば下川は第一着に設けらるべき停車場なるを以て名寄より三十分內外にて到着するを得れば、四季の樂み多趣味なるが故に必ず繁昌を來さんか

春……雪消へ霞たち初むれば辛夷(こぶし)先づ花開き、山櫻爛漫たるとき鶯鳥の美聲を聞きつゝ蕗の若葉を摘み獨活を採り早蕨を折るの面白さ

夏……翠黛滴らんとする綠樹の下に涼を容れ或は杜鵑

深林に啼くとき溪川にヤマメ、イワナを漁る實に清暑に、妙ならずとせず

秋……萬、楓、錦繡を飾り野邊の草荻や桔梗、苅る蕎女郎花の咲き亂るゝ頃、葡萄、コクワの實を採り或は茸狩りの遊など又樂しからずや……若し又た明皓々たる月を眺め咄々たる蟲聲を聞の清情を慰むべし

冬……白皚々銀世界に化したるとき森林に入りて山鳥を射、兎を追ひ或は狐を狩り、鹿を撃つの壯快の遊ならざるはなし

▲此の靈泉は飲用として諸種の疾病に特効あり故に清涼水なる「サイダー」を製造せんと大なる企畫あり、多望なる斯種の計畫にして功を奏しなば一大特產物を出し實に地方の發展を致すに至るべし

左に鑛泉の分析檢査書及醫治用効証明書を掲げ以て世人に紹介せん

鑛泉分析檢査書

天鹽國上川郡上名寄村字上名寄原野ピバウシナイ所在地

一鑛　泉　壹　種

源泉は山間澤地の雜草密生中より孔廣凡そ七センチメートル計りの口より泡沫狀をなし一分間約三千瓦間謨を湧出し周圍の地は黃褐色を帶び所々に鐵及亞爾加里土類の結合して浮石狀態を散見せり本泉は外看無色澄明にして微かに浮游物を混淆せり臭氣なく味ひ刺戟性にして爽快且つ稍々鹽樣なり反應は弱亞爾加里性にして煮沸後は殊に顯著なり比重攝氏十五度に於て(一、〇一二)水溫十四度是れが分析を遂るに左の如し

本表は一リートル中瓦間謨量を以て記す

一固形物總量	一、一五八一
一游離炭酸	二九一、四六五〇
一硅酸	〇、〇〇〇五
一礬土	〇、〇〇三五
一酸化鐵	〇、〇〇一五
一炭酸加爾里謨	〇、一二三〇
一炭酸麻個涅失亞	〇、一〇八〇
一格魯兒那篤個謨	〇、二六八六
一炭酸那篤個謨	〇、五九六四
一炭酸加個謨	〇、〇五七六

顯微鏡的檢査

一沈渣　植物性纖維細胞

右の成績により本泉は亞爾加里食鹽性炭酸泉にして他の有害物を認めず依て飲料並に浴料に適するものとす

明治三十九年六月十三日

竹村醫院

藥劑師　產　坂　廣　次　圖

証　明　書

藥劑師產坂廣次氏の鑛泉分析檢査書によれば本泉は亞爾加里食鹽性炭酸泉にして是れが醫治効用を認むる事左の如し

本泉は飲用浴用共に最良の泉類にして飲用して諸般の疾病に効を奏するのみならず浴用に供して皮膚を刺戟し表皮を膨脹せしめ皮脂を鹼化しまた血流を旺盛にせしむるの効あり其應用すべき病症は次の如し

(一)慢性胃加答兒酸性泡醸に因する消化不良及胃の圓形潰瘍等殊に慢性胃加答兒の粘液分泌過多にして咽頭加答兒を兼ね晨起嘔吐を發するもの空腹の時に此の泉水を服用せば粘液を溶解して之れを送下し胃中を清潔ならしめ食氣を振起し且つ胃の蠕動を促し以てよく大便を通利し消化機能を恢復するを以て尤も内服に適する外に之れを温浴に供する時は胃の諸種の疾患によりて起る胃の異常の運動機を調整しまた疼痛を緩解するの効あり

(二)慢性胃加答兒及下腹充血に對する飲用並に浴用

(三)肝臟諸病及膽石に對する飲用並に浴用

(四)咽頭喉頭氣管の慢性症に對する飲用並に浴用

(五)慢性肺炎及胸膜腹膜の滲出物に對する浴用

(六)腎臟腎盂膀胱の諸疾患並に腎臟結石及膀胱結石に對する飲用並に浴用

(七)末稍神經系統疾患及外科的疾患治癒後に於て機能障害を殘せるものに對する浴用

(八)婦人生殖器の慢性疾患に對する飲用並に浴用

(九)骨筋並に關節病殊に傷麻質斯病に對する浴用

(十)痛風腺病肥伴病及貧血症等に用て効を奏すべし

右証明候也

明治三十九年六月十五日

博愛堂竹村病院々長
醫學士　竹村新次郎㊞

(十七)風連市街

風連市街……風連原野二十六線東四號に開かれたる新市街、此地は元と個人に貸付せられたる農場内に形ち造れる私設市街なりき、先年之を返地し市街宅地となし這般百五十戸分賣拂處分濟になりしものたり、風連停車場及村役場、西風連尋常小學校、郵便局あり說教所あり、旅人宿、呉服太物、穀類、小間物、雜貨、運送等の諸商店あり、又た料理店、飲食店、湯屋、理髮床あり、戸數は百余戸にして日需の物品大概市街にて辨じ得らるゝに至れり、而して風連原野は總て上名寄村に屬せしものを明治四十二年多寄村に編み替られ且つ本村は上名寄村と同一戸長の所轄たりしを四十二年四月より分離して二級町村制を實施と同時に假役場位置を茲に指定せらる、現村長は藤懋治氏收入役は吉島又次郎氏なり、村會議員としては近藤豊吉、齋藤久治、高木啓三郎(以上風連部落)齊田與四郎、山田石太郎、山田宅藏、村西利藏、桶谷彌平(以上下多寄)後藤良作、久松榮作、富生貞吉、古川朔(以上上多寄)の諸氏撰出せられしが、久松榮作、齋藤久治の二氏退職により松本海門(風連)谷口百太郎(上多寄)二氏補欠當選せらる

多寄村は上多寄下多寄の兩大原野、風連原野及風連御料農地より成り現今戸數一千數百戸なるも上多寄の東方及天塩川左岸の大地積を解除し夫々賣拂或は貸付の處分ありしを以て歳日に增加しつゝあるにより近ち將來に數千

戸優勢なる一大村に至るべし

本村に關する地理、沿革、狀勢等は別に記述せしものあり他日之を公にするの時期あるべきに由りコヽには略記することになしぬ

肝付兼行

曝迷照嫩作又運。
夢繞嶺山千疊山。
楡風沐雨一旬間。
如今忘去牌生肉。

（十八）美深市街

美深市街……は下名寄村字美深七、八線間に新設の市街にして下名寄、中川二村を管轄する戸長役場あり現戸長は渡邊彦人氏にして村總代人は笠原新吉、齋藤熊藏の二氏とす、美深郵便局あり電信を取扱はる局長は本多靜直氏なり、美深尋常小學校あり生徒約三百人就學せり、巡查駐在所あり、官設驛遞所あり又た宮原農場事務所あり、近藤澱粉製造所あり、神社あり、寺院は近き九線にあり、現在戸數約百戸にして營業種別を擧ぐれば呉服太物商三、金物商二、旅人宿三、雜貨商五、飲食店四、蹄鐵工一、小間物商一、菓子商三、藥舗一、柾屋一、豆腐屋二、瀨戸物商一、建具屋二、湯屋一、理髮床二、醫業一、請負業二、代書業一、裁縫店一等なり

本市街は北見國枝幸及天鹽海岸に通ずる縣道に在るを以て前途大に發展すべき多望の地なりとす、特に鐵道工事も日に工程進行し來るを以て一段繁の盛を現出するは必然なりとす、本村は過る四十年まで上名寄多寄兩村と共に同一戸長役場の管轄に屬せし兄弟村にして上名寄を伯とせば下名寄は仲にして多寄は季たるべきか、本村に係る沿革、統計村勢等は一編の稿本あり、之れは遠からず鐵道の開通を見るべきを以て其の期に於て地方盛況を世に紹介することにせんとす

天地の神もしりませ國のため　ちしまの奥におもひ入る身を

松浦竹四郎

而して本市街に於ける重なる有志家及商店等は左の如し

總代人	齋藤爲熊	米穀荒物	相良千代藏
農場主	宮原代太郎	米穀荒物	喜多商店
米穀雜貨	二宮卯八郎	和洋農具	石本商店
旅館	牧野文藏	呉服太物	今井呉服店
荒物	西山商店	和洋小間物	山口商店
呉服太物	稲越呉服店	藥種	高畑藥舗
菓子類	富永一三		田口源太郎
旅館	大島旅館	驛遞所	十龜庄平
金物類	新海幹造	料理	井上料理店
代書	池田文二		

營業種目
●貨物運送
●鐵道貨物取扱
誠實敏速

天鹽國上川郡名寄驛前
天鹽運輸合名會社
電話(ミツ)又ハ(ミ)
營業主任　武田寅三郎

西四條通北一丁目
和洋御菓子製造所
卸小賣商
宮本喜平治

四條通南五丁目
馬具靴製造
卸小賣
毛革賣買
米穀荒物雜貨商
坂東商店
樋口商店

天鹽國名寄市街大通停車場前
誠實勉強
一等旅館
北見行馬車橇
天鹽川舶荷客仕立所
石川旅館
電話(イシ)又ハ(イ)

純良醫藥
工業藥品
有名賣藥
給具染料
化粧品各種

本店 名寄市街西四條通

幸池田藥舗

電信略號（イ）

幸支店

名寄市街一條通五丁目

製麵製粉業
特産薄荷及
毛皮賣買商

名寄市街地

佐川商店

海産委托問屋

北海道天塩國上川郡名寄市街地

魚菜市場

電略（クホ）又ハ（ク）

農産木材商

天塩國名寄市街三條通五

山本商店

和洋酒鑑詰
小間物玩具
煙草葉子
構内待合所

天塩國名寄停車場前

山端喜八

電略（ヤマ）

米穀荒物
日用雜貨商
薪炭卸小賣
製米製麥賃搗業

天塩國名寄市街地仲通北角

小林商店

電略（コ）

天塩國名寄市販地
旭川八代鐵鑛泉街賣所

八代鑛泉販賣

橋本名寄支店

米穀荒物商
和洋小間物商
銅鐵農具
森本式除草機

相良庄太郎
兒島商店
山田金物店
名寄市街地

漆器陶器
茶家具類
卸小賣商

天塩國名寄市街西四條通
藤井常吉
電略（○井）

菓子製造
卸小賣商

天塩國名寄市街西四條通
田中利久堂

吳服太物商
各國時計販賣並修繕

近江屋支店
木村時計店

陶器各種漆器硝子商

名寄片岡陶器店
美深同支店

吳服太物
米穀雜貨商
農產物買入所
天塩國上名寄二十三線（下川）
日比瀧三郎

米穀荒物
日用雜貨商
天擔國名寄市街地
河村商店

馬具製造
藤神保商店
名寄市街

北見方面往復
馬車馬橇繼立
天擔國名寄停車場前
移住民割引
軍用旅館
豐嶋旅館
誠實勉强

（いろは順次）
舟橋醫院
小笹醫院
淺田醫院
深山醫院
天擔國名寄市街地

製材販賣
天擔國名寄市街地
北小木工場
小樽區稻穗町中央驛前
北一製材販賣店

米穀、荒物、乾物、和洋酒、罐詰各種
味噌・醬油、諸雑貨、和洋小間物
其他馬糧一切

各國食パン
和洋菓子製造卸小賣販賣

天據名寄市街大通南四丁目角

㊀桑野商店

名寄市街五條通角

會、席
即席仕出
御料理

東亭

北海道新聞名寄賣捌所
名寄案内賣捌所

中田虎太郎

本社印刷廣告取扱
小樽堀互信社名寄支部
恩給者年金貸金

西三條南四丁目

産婆 姙婦入院隨意

遠山ためよ

藥種各國風
高名賣藥 連市街地
其他化粧品

中野藥舗

各種測量
設計製圖

旭川町三條通上川支廳前

大畑測量事務所

測量
設計

旭川町二條通四丁左三號目中通

三浦土木館

電話八百〇一番
電報(ミウラ)又ハ(ミ)

北見名寄間往復馬車馬橇繼立
移住民割引軍用旅館
誠實勉強

上名寄二十三線（下川）

旅館 岡田平五郎

吳服太物
日用雜貨商 越後屋

上名寄二十三線（下川）

佐々木周作

北見名寄間往復馬車馬橇繼立
移住民割引軍用旅館

天塩國上名寄二十三線
官設下川驛逓所

稻田旅館

北見名寄間往復馬車馬橇繼立
移住民割引軍用旅館

上名寄然別
一の橋驛逓取扱

田所新藏

藥種賣藥化粧品
米噌日用雜貨類

上名寄二十三線（下川）

末武藥舗

呉服太物、米穀
雑貨、小間物商、
農産委托販賣所
天拙國上名寄十五線
㊐井・矢野商店
矢野仙太郎

菓子製造
萬荒物雑貨
農産物買入所
天拙上名寄二十三線（下川）
㊐武田重太郎

移住民割引
軍用旅館
懇切叮嚀
天拙線多寄市街地
㊐杉浦旅館

呉服太物
小間物商
天拙線上川郡多寄市街地
㊄後藤良作商店

米穀荒物
雑貨肥料
商
天拙線上川郡多寄市街地
㊐土橋商店

藥種賣藥
粧小間物類化
天拙線上川郡多寄市街地
戸城藥舗

木材商
建築請負
挽材販賣

天擔線上川郡多寄驛前
小川木材部
和寒出張所
電略（ヲカワ）又ハ（ヲ）

鐵道官物
取扱業
誠實勉強

天擔線多寄驛前
奢藤原運送店

米雜穀荒物
並肥料商

天擔線多寄市街地
北島商店
電略（ヤマキ）又ハ（キ）

呉服太物古着
小間物履物商

天擔線多寄市街地
岡部商店

和洋
小間物類
諸紙類
化粧品類
玩具類
漆器類

國定教科書取次販賣所
學校用品

天擔國風連市街地
高橋商店
電略（〇二）

營業課目
和洋雜貨
打物類
及
萬金物商

天擔國風連停車場前
田中商店

和洋酒鑑詰
荒物日用雜貨

天擔國風連停車場前
仙戸田商店

鐵道滊船
貨物取扱
誠實敏速

天塩國上川郡風連停車場前
松本運送店
電話(〇ヌ)

天塩國上川郡風連市街
地大通二丁目左五號
岩間旅館
電話(〇イ)

移住民割引
軍用旅館
警察官定宿
各官衙旅舍
誠實勉強

天塩線風連驛
大谷旅館
桂本千太郎

移住民割引
軍用旅館
警察官定宿
各官衙旅舍
誠實勉強

天塩國名寄驛前
大久保木材部

旭川町宮下通十一丁目
大久保出張所

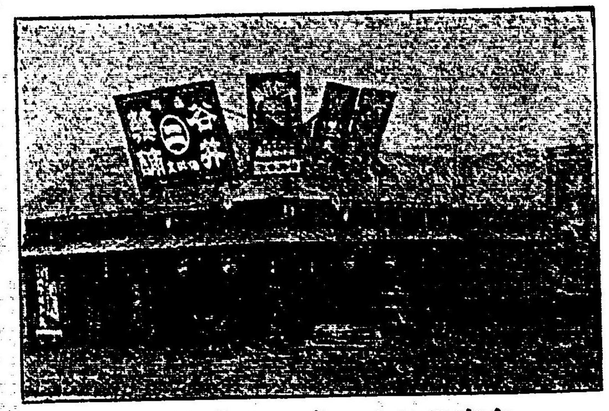
石狩國美瑛
大久保牧場

鐵道貨物取扱
天塩川舟荷物取扱
誠實敏速

天塩線名寄停車場前
共同運送組
電話（ニホン）又ハ（二）

天塩線名寄停車場前
木材業 近藤木材部
近藤豊吉

古着太物
日用雑貨
天塩國名寄市街西四條南三
力片桐商店



名寄四條六ノ角 谷井信三郎

銘酒
金泉
銀泉
天塩國上川郡名寄市街地
釀造發賣元
リ笠原合名會社
名寄支店
鈴木藤吉

銘酒
高砂
福泉
釀造發賣元
北海道旭川町宮下通十七丁目
上小檜山鐵三郎
電話 二百五十一番

活版石版印刷
和洋帳簿製本
團扇扇子
引札暦柱掛
ゴム印製造
新聞廣告取次
北海道旭川町六條師團通
其水堂支店
電話ヲヨ電話六〇四番
本店
小樽臨色內町
電話 園三四番
振替 二一五二番

銘酒太陽
燒酎
生酢昇龍
酒酢醸造元
旭川町二條通十二丁目
㊁瀬古商店
電話(三一〇)番

和洋酒
罐詰類
海産乾物
雜貨商
天塩線上川郡和寒市街地
㊥畑中商店

移住民割引
軍用旅舍
懇切叮嚀
徳島屋
旅人宿
天塩國上川郡和寒停車場前
㊤大石治郎

鐵道貨物取扱業
誠實敏速
大石運送店
營業主任　大石治郎

米穀荒物日用品
卸小賣
肥料販賣農產賣買商

相良千代藏

天鹽國中川郡美深市街地
電略(チヨ)又ハ(サ)

米穀荒物
諸雜貨商

天鹽國中川郡美深市街地

喜多商店

旭川町一條通十三丁目
松井倉藏
旭川町一條通十丁目
村上書店

天鹽國中川郡美深市
天久保佐助
天鹽國中川郡美深市
岡傳四郎

米穀荒物
肥料
農產賣買
天鹽國中川郡美深市
松本商店

呉太服物
古着商
天鹽國中川郡美深市地
大藤葉商店

呉服太物
米穀雑貨
文部省檢定
教科書學校用品

天塩國中川郡美深市街地
二宮商店

北見國枝幸天塩名寄間
人馬車橇繼立
各官署旅舍　軍用旅舍
移住民割引　誠實勉強

天塩國中川郡美深市街地
牧浦旅館

札幌と聞けばすぐ出る
五番館
（とは何でせうか）
●成長したる札幌興農園で
●北海唯一完備した百貨店
●百聞一見に如かずとは實にもこ
思召さるべく候
●雜貨目錄御申込次第進呈仕候

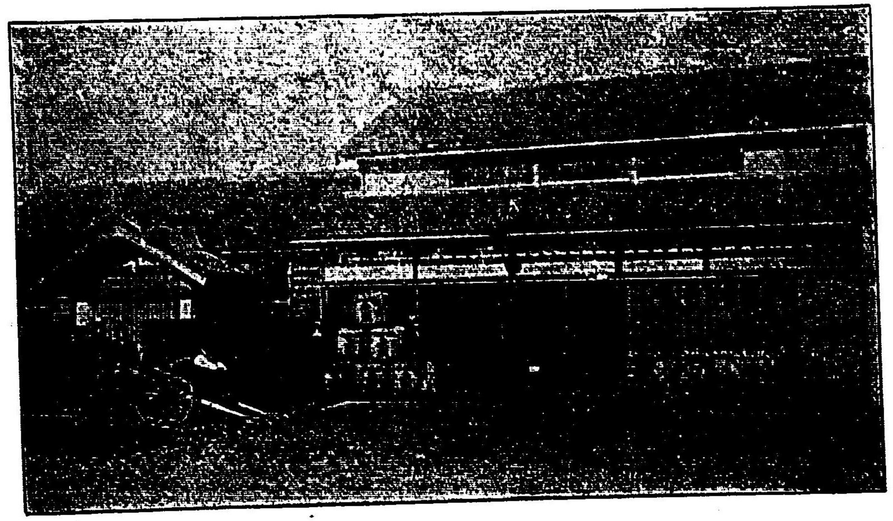
和洋農具打刃物類
馬道具度量衡器商
天塩國中川郡美深市街地
石本商店
電略（イシ）

天塩國中川郡美深市街地
代書業　池田文二
旭川山本好文堂印刷取次

屋問業專酒坂大の川旭

店約特手一兵强及松老酒銘

す証保任責以はるな確正桝入良純質品



弊店は益々各位の御信用に背かず大
勉强仕候御安心の上御取引を乞ふ

酒類問屋

旭川町四ノ五

辛嶋商店

電話（五四九番）

活版印刷所 豐文堂

札幌市南五條東二丁目廿一番地

電話（一ホ一）

渡邊商店

札幌区名物琴似四丁目通

電話〇ツ一

商

明治四十三年四月廿八日印刷
明治四十三年五月七日發行
定價金參拾錢

著作兼發行者　北海道札幌區北四條西六丁目二番地　御子柴五百彦
印刷者　北海道札幌區南五條東二丁目廿一番地　穗高良造
印刷所　北海道札幌區南五條東二丁目廿一番地　豐文堂活版印刷所

賣捌所
名寄市街西四條通　荒木商店
同　西五條通　中田虎太郎
同　大通　桑野商店

94
676

94
676

023213-000-5

94-676

名寄案内

御子柴 五百彦／著

M43

ADC-0050